令和４年度指定（地域社会学科）

新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）

令和４年度研究開発実施報告書　第１年次

島根県立隠岐島前高等学校

目　次

1　構想概要

新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）構想調書・・・・・・・・・・3

2　研究開発実施報告

令和４年度　研究開発実施計画書（抜粋）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

令和４年度　研究開発計画および実施報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

研究開発計画１：新学科カリキュラム準備委員会の設置

研究開発計画２：学校経営目標推進委員会の設置

研究開発計画３：普通科・地域共創科に向かうための新しい「総合的な探究の時間」の実施

研究開発計画４：探究学習の「評価」研究

研究開発計画５：成果目標、活動指標の検証

研究開発に係る評価

運営指導（共創）委員会記録

3　資料

（１）構想概念図・・・ 30

（２）事業評価資料・・ 31

（３）普通科改革支援事業ロジックモデル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

（３）第３回コーディネーター研修資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

1　構想概要

地域との協働による高等学校教育改革推進事業構想調書

1　研究開発構想名

離島発 「グローカル人材」を育成するための「教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」の開発

2　研究開発の目的・目標

（1）目的

i）目的①：「教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」の開発

本構想の第一の目的は、グローカル人材の育成につながる「教科学習・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」の開発である。この開発を通して、グローカル人材に必要な４つの資質・能力である「主体的行動力・多文化協働力・探究的学習力・社会的自立力」（※下左図）を身につけていく。現在は「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」により、探究学習と教科学習をつなぎ、教科（科目）横断的に教育内容を再構築する「地域未来探究」の研究開発を進めている。とくに今年度は、「総合的な探究の時間」の中で、各教科の観点から地域課題を探究する授業や、各教科同士でのコラボレーション授業の実践、教科を地域と関連づけて行う授業実践やシラバス改訂などを行うことでこれらの習得を目指してきた。しかし、今年度の評価を見ると、改善の余地があり、さらなる強化が必要である（下右図）。今後は、これまでの研究成果を存分に活かしながら、その学習スタイルを「地域未来探究」から「グローカル未来探究」へとさらに発展させ、教科学習と探究学習とが有機的に融合していくカリキュラムの開発を目指し、４つの資質・能力のさらなる習得を目指す。また、同時に「教科の学びで習得した知識・技能や視点を地域探究の実践に活かす探究性重視の普通科」と「圧倒的な地域実践を基に、必要な学びを接続・深化する共創科」と色分けすることで、指導の個別化と学びの個性化を図る。

主体性	自己肯定感・有用感	自分にはよいところがある。自分自身に満足している。
	課題設定力	現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる
	行動力	自分で計画を立てて活動することができる。
	粘り強さ	うまくいかないことにも忍耐強く取り組むことができる。
協働性	受容力	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる。
	対話力	相手の意見を丁寧に聞くことができる。
	表現力	友達の前で自分の意見を発表することができる。
	共創力	共同作業において，自分の力が発揮できる。
探究性	学びの意欲	自分から勉強することができる。
	情報活用能力	情報を理解し、勉強したことを活用することができる。
	批判的思考力	問題を順序だてて考えることができる。
	省察力	自分を客観的に理解することができる。
社会性	地域貢献意識	地域の役に立ちたいと考えている。
	社会参画意識	地域や社会での問題やできごとに関心がある。
	グローカル意識	地域の課題と世界の課題を関連づけることができる。
	持続可能意識	地域文化や暮らしを，自分の手で未来に伝えたいと考えている。

※申請校で定める４つの資質・能力

※令和３年度「４つの資質・能力」評価

ⅱ）目的②：より共創的な運営体制

第二の目的は、チーム学校・地域を超えた「地域社会に開かれたチーム」によって本構想の実現に挑むことである。申請校の生徒や教職員、授業や高校魅力化コンソーシアムなどで関わる地域の関係者だけでなく、運営指導委員（運営指導委員改め「運営共創委員」を予定）をはじめ、様々な形で申請校に関わる地域内外の応援者たちと手を取り、本構想を共に創っていくことで、必要な人的・物的リソースを、様々な叡智を結集して効果的に組み合わせながら活用できる体制を構築する。

ⅲ）目的達成を通して目指したいこと

上記の本構想の目的を果たすことで、結果として、全国に先駆けて本事業に挑む申請校が、今後、全国のとくに人口減少の著しい離島・中山間地域での普通科改革に挑む地域・学校のロールモデルとなり、その過程で得られた経験や知見も含めて、広く社会に公開したい。ひいては地域に思い入れや熱量のある若者を全国的に輩出することに貢献し、都市部から地方部への人材還流まで視野に入れて構想の実現を目指したい。

（２）達成目標

ⅰ）アウトプット

グローカル人材に必要な力は「主体性」、「協働性」、「探究性」、「社会性」の４つの資質・能力である。

卒業までに４つの資質・能力にどのような変化があるか、生徒の「自己能力認識」および「行動実績」を定量的に調査する。具体的には、８０項目のアンケート調査を実施し、「主体性」、「協働性」、「探究性」、「社会性」の「自己能力認識」で肯定的意見が７８％以上となるよう、「行動実績」では肯定的意見が８０％以上となるよう数値目標を設定する。

また、生徒が育つ環境を「安心・安全の土壌」、「多様性の土壌」、「対話の土壌」、「開かれた土壌」と定義し、生徒および大人（コンソーシアム構成員および申請校教職員）にアンケート調査を実施する。具体的には、各土壌における生徒の肯定的意見、大人の肯定的意見ともに９０％以上となるよう数値目標を設定する。

以上を踏まえ、アウトプットには、「a. 主体性、協働性、探究性、社会性における「自己能力認識」で肯定的意見が７８％以上」、「b. 主体性、協働性、探究性、社会性における「行動実績」で肯定的意見が８０％以上」、「c. 安心・安全の土壌、多様性の土壌、対話の土壌、開かれた土壌における生徒の肯定的意見が９０％以上」を設定し、上記調査結果を基に、カリキュラムの研究開発や授業改善に活用する。

ⅱ）アウトカム

グローカル人材の育成に向けて、「教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」を通して、生徒の学習の個性化と教職員の指導の個別化を、普通科・地域共創科の両面から推進することで、よ

りグローカルな進路選択が全体の２０％以上まで拡がるよう、進路選択についての数値目標を設定する。とくに卒業後の生徒の自己実現のために申請校での学びを活かし、グローカルなビジョンを描き、マイテーマをよりグローバルやローカルな観点から深めていくことを望む生徒が増えることを目指す。

また、同時に、卒業後も隠岐島前地域や日本全国で開催される共創に関わるワークショップやプログラムに参加するなど、卒業後も積極的に島前地域に関わろうとする生徒数が２０名以上になるよう、数値目標を設定する。

以上を踏まえ、アウトカムには、「a. 卒業後のグローカルな進路選択者（スーパーグローバルユニバーシティや海外への進学、地域協働系学部への進学の割合が２０％以上」、「b. 卒業後も隠岐島前地域に積極的に関わろうとする生徒数（関係人口・還流人口数）が２０名以上」を設定する。

３　研究開発の背景

i）申請校を取り巻く状況

離島に位置する申請校および隠岐島前地域の育てたい人材像は、これまで様々な事業でも掲げてきたとおり「グローカル人材」である。グローカル人材は「地球的視野で直面する事象や課題を俯瞰し、考えながら、解決に向けて足元から実践していける人材」であり、同時に「ふるさとや地域を想いながら、実践家として活躍できる人材」と定義し、地域からも世界からも「求められる人材・愛される人材」を育成することが申請校の使命であると考える。世界に先駆けて「課題先進地」となった隠岐島前地域が現実的に抱える地域課題の解決や課題を逆手に取った価値の創造に挑み、地域の課題や価値と地球規模の課題や価値とを「結びつけて」思考し、世界のどこにいても実践者として活躍できる人材となることが地域社会にとっても、これからを生きる生徒にとっても重要である。

ii）「地域共創科」を設置する必要性

本構想では、地域共創科を設置することで、これまでよりもさらにグローカルなフィールドで学ぶ機会や環境を整備し、より地域・社会に開かれた形でのグローカル人材の育成を目指す。

そのためには、グローカルなフィールドでの地域課題解決型・価値創造型の探究学習が不可欠である。これまでも、グローカルなフィールドでの地域課題解決型・価値創造型の探究学習を通して、「気づく/考える/話し合う/実践する・巻き込む/振り返る」という申請校独自の学習と行動の学びのサイクルを回すことで、主体的行動力・多文化協働力・探究的学習力・社会的自立力を身につけることができるようカリキュラムを設計してきた。これらの力を着実に身につけるためには、より深くグローカルに根ざし、サイクルを何度も何度も回しながら学びを深めていくことが必要になる。ところが、現行のカリキュラムでは時間的な制約から、生徒にとっても教職員にとってもサイクルが一度しか回せないなど中途半端になってしまうことが課題であった。そこで本事業では、普通科とは別で新たに地域共創科を設置することでより積極的に特色化・魅力化を図り、６コマ連続で丸一日地域に飛び出したり、リフレクションの技術を学ぶことで新たな学びにつなげたりすることのできる「地域共創 DAY」を設置することで

その課題を解決する。

そうすることで、前述の申請校独自の学びのサイクルを、「気づく/考える/話し合う/実践する・巻き込む/成功する・失敗する/振り返る」という行動と内省のサイクルにアップデートし、失敗を恐れずにさらなる挑戦を促していく仕組みと、その挑戦を深い学びにつなげるための「振り返り」を教職員・生徒共に学校全体で推進していく。また、四年制大学から就職まで、多様な進路を希望する申請校の生徒に対し、共通したカリキュラムの中で指導の個別化を図ることについても同時に課題を抱えていた。２年次から学科が分かれることで、「教科の学びで習得した知識・技能や視点を地域探究の実践に活かす探究性重視の普通科」と「圧倒的な地域実践を基礎に、必要な教科の学びを接続・深化する共創科」と色分けし、指導の個別化と学びの個性化を図る。双方の学科とも教科学習と探究学習との有機的なつながりを目指したカリキュラムを開発することで生徒の進路実現を目指す。

４　令和４年度実施計画

①新学科カリキュラム準備委員会の設置

令和５年度から本格的に始動する地域共創科のカリキュラムに向けて、新学科カリキュラム準備委員会を設置する。年度始めから始動し、カリキュラムの確定と運営体制の確立を令和４年度末までに行う。また、地域内外の協力体制を整える役割も担う。

②学校経営目標推進委員会の設置

学校全体として、本構想の実現や行動と内省の学びのサイクルを推進していけるよう、「失敗を共に称え合う学校」をスローガンに掲げ、生徒および教職員が失敗を恐れずに挑戦できる風土や仕組みを構築し、同時に、運営共創委員の熊平委員の力も借りながら、リフレクション（振り返り）を日常のあらゆる場面で行えるように促進する。

③普通科・地域共創科に向かうための新しい「総合的な探究の時間」の実施

学科選択によって、普通科・地域共創科と分かれていく前段階である１年次の「総合的な探究の時間」のカリキュラムを見直し、各教科との有機的な融合を図ることはもちろんのこと、学校行事や HR 活動とも連動した教育活動を推進する。

④探究学習の「評価」研究

運営共創委員の喜多下委員の力を借りながら、探究学習の「評価」について探究し、効果検証を行う。また、翌年度からその評価方法を実践する。

⑤成果目標、活動指標の検証

これらについて、関係機関との協議も踏まえ、成果目標、活動指標の検証を行う。

５　研究開発の実施体制

（１）管理機関の実施体制

県教育庁内に組織横断型の会議体およびチームを組成

・　組織横断の枠組みにより、事業全体及び各校の取組状況を組織全体で共有。

・　直面している課題等に対して、組織全体で対応していくことを可能とする。

①　県立高校魅力化ビジョン推進本部

・　教育庁の部長級をトップとして関係所属の長で構成する組織。

・　月１回程度開催し、事業全体や各校の取組状況を確認する役割を担う。

②　庁内横断チーム（仮称：地域協働チーム）の組成

・　地域との協働による教育の特色化・魅力化等に関わる所属で組織。

・　学科等を所管する管理部門（学校企画課）に加えて、地域との協働体制やカリキュラム等を所管する指導部門（教育指導課）を中心として構成。

・　このチームで各校に対する実務的な伴走を行うことで、顔の見える関係を構築するとともに、各校が直面する課題に対して、組織の枠を越えて、迅速な対応や支援を行う役割を担う。

（２）運営指導委員会の構成と位置付け

ｉ）運営指導（共創）委員会

運営指導（共創）委員会は、下記のメンバーで構成する。

所属	氏名	主な実績
学校法人早稲田大学 教育・総合科学学術院	藤井　千春 （運営指導委員長）	申請校での「スーパーグローバルハイスクール事業」および「地域との協働による高校教育改革推進事業」における運営指導委員長
一般社団法人 21 世紀学び研究所	熊平　美香	『リフレクション　自分とチームの成長を加速させる内省の技術』著者
三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング株式会社	喜多下　悠貴	島根県全体で導入している「高校魅力化評価システム」開発者
国立大学法人島根大学 教育学研究科	松尾　奈美	研究テーマ「探究学習を教科学力につなげる深い学びの実現」
海士町立海士中学校	道川　一史	第４回 NITS 大賞優秀賞「学びがつくる三方よし　～社会に開かれた総合的な学習の時間～」

ⅱ）運営指導（共創）委員会の位置付け

本構想における運営指導委員会は、単に指導・助言をいただく委員会に留まらず、本構想を、それぞれの委員の専門性を活かし、様々な観点から考察し、深めていくために、共に創る「運営『共創』委員会」と位置付ける。道川委員とは、本構想における地域にとっての価値やインパクト、小中学校との協働のあり方を共に考え、喜多下委員とは、探究学習の「評価」の仕組みを共に創る。また、熊平委員と

は、行動を学びにしていくための「リフレクション（振り返り）」について共に開発し、藤井委員と総合的に考察していく。また、本構想の実践や成果を松尾委員に論文の形でまとめていただくことを想定している。

（３）コンソーシアムの体制

コンソーシアムは、既に設置済みである「島根県立隠岐島前高等学校の魅力化と永遠の発展の会」と「島根県立隠岐島前高等学校魅力化推進協議会」をベースに再構築し、地域との連携・協働をはじめ、様々なステークホルダーとの協働を推進する。また、本構想における「教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」を深化・発展させることを念頭に人選を行う。あわせてコンソーシアムには、申請校管理職、学校経営補佐官、主幹教諭、コーディネーターが会員や事務局として入る。

コンソーシアムでは、年度始めに当該年度の目標設定を共有し、年に６回程度の会議を設け、進捗状況を報告する。年度末には、目標の結果や評価について共有し、次年度以降の指導・助言を受ける機会を設ける

機関名	機関の代表者名
島根県教育委員会	教育監　　柿本　章
島根県立隠岐島前高等学校	校長　　野津　孝明
一般財団法人 島前ふるさと魅力化財団	常務理事　　大野　佳祐
隠岐國学習センター	センター長　　竹内　俊博
一般財団法人 地域・魅力化プラットフォーム	理事・会長　　水谷　智之
海士町	町長　　大江　和彦
海士町教育委員会	教育長　　平木　千秋 / 井筒　秀明
西ノ島町	町長　　升谷　健　 / 坂榮　一秀
西ノ島町教育委員会	教育長　　扇谷　就二/ 澤　純子
知夫村	村長　　平木　伴佳
知夫村教育委員会	教育長　　渡部　真也

（４）コーディネーターの配置と役割

ｉ）コーディネーターの配置

コーディネーターには、以下の２名を配置する。

所属	氏名
一般財団法人島前ふるさと魅力化財団	大野 佳祐（おおの けいすけ）
一般財団法人島前ふるさと魅力化財団	BERZENY GISELE（バーズニー ジゼル）

ⅱ）コーディネーターの役割

①地域・学校コーディネーター　１名（大野佳祐）

地域・学校コーディネーターには、月に１０日程度の勤務で、校内におけるコーディネート機能と地域におけるコーディネート機能の両面を期待する。とくに校内におけるコーディネート機能の面では、カリキュラムや授業における地域連携の企画運営、年間指導計画の策定支援を中心に関わる。また、本構想を、学校全体として推進していけるよう、学校管理職と共に学校経営会議や学校経営目標推進委員会のメンバーとしても関わる。地域におけるコーディネート機能では、生徒の海外留学等の支援・調整や卒業生と在校生、卒業生と産業をつなぐ機会の設計・運営を中心に関わる。大きくは、このように設計・運営面での仕組みの構築や推進体制づくりのところに関わることで、結果として本構想の目的および目標の達成に貢献することを期待する。

②グローバルコーディネーター　１名（バーズニー ジゼル）

グローバルコーディネーターには、月に１０日程度の勤務にて、主にグローバルとの接続やグローバルでの活動のサポートを担うことを期待する。とくに海外での探究活動を推進する際のコーディネート機能を担うことで、教職員の負担を軽減する役割を担う。また、日常的な探究学習の場でも海外での事例紹介や外国人目線での指摘など、日本人だけでは実現できないグローカルな多様性を担保する上での役割と期待は大きい。

（５）事業終了後の取組計画

本構想は、これまで申請校が実施してきた体制に基づいて企画しているため、指定終了後も事業継続は十分に可能である。

事業内容については、本構想に基づいて開発・研究を進めながら PDCA サイクルを回し、翌年度以降につなげていく。また、運営指導委員には、仮に本事業が終了しても「運営共創委員」として関わり続けてもらい、自走できるまでの仕組みを整えていく。さらに、指定期間の中で「学び共創フォーラム（仮）」を積極的に実施しながら、知見を深めていく機会をつくることで、教職員が自走できる力をつけていく。

（６）国の指定終了後の事業経費計画

必要となる経費については県費の他、引き続き地元三町村と連携して、ガバメント・クラウドファンディングやふるさと納税を活用するかたちで調達できるよう指定期間内に関係機関と調整を行っていく。また、申請校と連携・協働している一般財団法人島前ふるさと魅力化財団では、申請校の取り組みを応援する層からの資金援助や申請校の実践を活かした学びのプログラム（研修旅行の受け入れや講演・研修等）の提供を進めていきながら資金調達できるようにしていく。以上のように、必要経費については積極的に勉強会等に参加するなど、様々な知見を活用し、事業が持続的に継続できるよう工夫を行っていく。

（７）学校の実施体制

ｉ）学校経営会議による学校経営としての推進・体制づくり

本構想は、学校経営目標の中に明確に位置づけ、学校全体として全教職員で推進する。申請校の管理職・学校経営補佐官・主幹教諭・コーディネーターで構成されている学校経営会議の中で、本構想を含めた地域共創科についての進捗確認を行い、学校経営の観点から本構想推進における様々な事項の判断や体制づくりを支援する。また、年度末には、学校経営目標における振り返りを行い、その振り返りを基に翌年度の目標を立て、それが達成できる体制を構築する。

ⅱ）推進委員会の設置

本構想を含めた、学校経営目標を推進するための「推進委員会」を設置する。推進委員会は主幹教諭をリーダーとして、教職員の有志とコーディネーターとで委員を構成する。推進委員会では、学校経営目標を戦略的かつ具体的目標に落とし込み、目標達成に向けて PDCA サイクルを回しながら実行する。適宜、全教職員に開いて意見を募るタイミングをつくるなど、推進委員だけで閉じないよう注意する。

ⅲ）運営委員会や教科主任会での進捗確認や連携

管理職や学年主任、分掌の長が集まる運営委員会の中でも、学校経営目標の進捗確認や本構想についての意見聴取を実施する。また、構想推進について、運営委員を基点に各学年部や各分掌とも連携しながら推進する。

教科主任会では、本構想における第一の目的にも掲げた「グローカル人材の育成につながる「教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」の開発について、特に教科の観点から、探究学習とどのように有機的に接続し、融合していくのかを考察し、実行する。

ⅳ）学年部＋コーディネーターによる学年単位での推進

申請校では、現在も「総合的な探究の時間」を各学年部で推進している。学校経営推進委員会での施策や教科主任会で練られた「教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」を踏まえながら、学年単位では、学年部とコーディネーターとが連携・協働し、本構想を推進していく。

（８）生徒・保護者・地域等への説明

ⅰ）令和３年度までの説明実施状況

令和３年度には、申請校において、令和４年度からの設置に向け、中学生・保護者向け説明会を三町村にて対面で実施した。また、島留学生・保護者向けには、年間３０回以上にわたって独自のオンライン学校説明会にて説明する機会を設けた。また、７月・１１月に行ったオープンスクールの際にも積極的に情報提供をし、多くの問合せが寄せられた。この他、地域住民への説明として、コンソーシアム会議や地元広報誌、SNS での積極発信など実施してきた。合わせて学校ホームページのトップページにも、「新学科 地域共創科」タブを用意し、ページを新設するなど適宜情報発信を心掛けている。

また、地元三町村の教育委員会や小中学校には、新学科設置に係るパンフレットを持参し、教職員への説明を直接行った。小中学校の教員によっては文部科学省の普通科改革の主旨や議論を理解していないケースもあり、有意義な時間となった。

昨年１２月には、朝日新聞「EduA」の取材を受け、全国的な発信の機会となった。

＜参考＞朝日新聞 EduA「普通科改革最前線！ 島根県立隠岐島前高校の「地域共創科」とは？」
https://www.asahi.com/edua/article/14502801

ⅱ）令和４年度以降の実施計画

令和４年度以降は、上記 i）をさらに充実させていく。

来年度の１年生（地域共創科初年度対象生）については、令和５年１月の学科選択に向けて説明会を複数回実施し、生徒および保護者と共に将来のキャリアイメージと紐付けながら教職員が面談等のサポートをし、適切に学科選択できるよう支援する。

また、島内中学生・保護者に向けては、学校説明会やオープンスクールの中で、地域共創科について情報提供し、とくに普通科との違いや想定される進路などを踏まえた説明を実施する予定である。同時に、三町村の教育委員会や小中学校に対しては、これまで行ってきた生徒同士の交流だけでなく、教職員同士の交流も積極的に図っていくことで、地域共創科についての理解や設置背景、目的や目標についても理解を深める機会をつくる。

島留学生となる島外の中学生・保護者に向けては、学校独自で開催しているオンライン説明会やオープンスクールの中で地域共創科について情報提供し、具体的にどのようにカリキュラムが進行するのか等について説明する機会を設ける。

令和５年度以降、実際に学科が分かれてカリキュラムが進行する際には、日々の実践を学校ホームページにて適宜情報発信し、令和６年度終了時には、進学実績にも触れながらより広く情報発信していく。これらに加え、地域内外の情報媒体を活用しながら、地域共創科について適宜発信していく。

令和４年度研究開発計画および実施報告

令和４年度 研究開発実施計画書（抜粋）

１　研究開発名

離島発「グローカル人材」を育成するための「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の探究

２　令和４年度の研究開発実施計画

（１）新学科カリキュラム準備委員会の設置

令和５年度から本格的に始動する地域共創科のカリキュラムに向けて、新学科カリキュラム準備委員会を設置する。年度始めから始動し、カリキュラムの確定と運営体制の確立を令和４年度末までに行う。また、地域内外の協力体制を整える役割も担う。

（２）学校経営目標推進委員会の設置

学校全体として、本構想の実現や行動と内省の学びのサイクルを推進していけるよう、「失敗を共に称え合う学校」をスローガンに掲げ、生徒および教職員が失敗を恐れずに挑戦できる風土や仕組みを構築し、同時に、運営共創委員の熊平委員の力も借りながら、リフレクション（振り返り）を日常のあらゆる場面で行えるように促進する。

（３）普通科・地域共創科に向かうための新しい「総合的な探究の時間」の実施

学科選択によって、普通科・地域共創科と分かれていく前段階である１年次の「総合的な探究の時間」のカリキュラムを見直し、各教科との有機的な融合を図ることはもちろんのこと、学校行事やHR活動とも連動した教育活動を推進する。

（４）探究学習の「評価」研究

運営共創委員の喜多下委員の力を借りながら、探究学習の「評価」について探究し、効果検証を行う。また、翌年度からその評価方法を実践する。

（５）成果目標、活動指標の検証

これらについて、関係機関との協議も踏まえ、成果目標、活動指標の検証を行う。

令和４年度 研究開発実施報告

研究開発計画１：新学科カリキュラム準備委員会の設置

１．仮説

地域共創科を新設するにあたり、２年次には、「地域未来共創」、３年次には、「グローカル未来共創」を設定し、いずれも週に１日、６コマ連続の「地域共創 DAY」を設けることで、グローバルやローカルなフィールドでの課題解決や価値創造をこれまでよりもより一層深く実践し、学びを深める。

２年次に行う「地域未来共創」では、単元「地域について知る」において、単に地域の実践者の話を聴いたり、インタビューをしたりするだけでなく、実際に地域の実践者の現場に行き、その実践を、時間をかけて共に体験することで、体感的に地域の営みや諸課題に関する、より真正な実態を掴むことで理解を深めることを目指す。また、それを踏まえ、より深い「課題解決や価値創造」を考え、個人で探究するマイ・プロジェクトやチームで探究するアワ・プロジェクトとして、実際に地域の現場で時間をかけて実践し、学びのサイクルを回しながら試行錯誤を繰り返す。３年次に行う「グローカル未来共創」では、地域の外で活躍する実践者や海外での実践者とつなぎ、地域外の実践も踏まえながら、さらに力強く「課題解決や価値創造」に向けた活動を推進していく。

上記のカリキュラムイメージを、様々な教科の教職員やコーディネーター、地域外の専門家などで構成する新学科カリキュラム準備委員会を設置し、具体的な年間計画に落とし込んでいく。

２．実践

ｉ）新学科カリキュラム準備委員会

様々な教科の教職員やコーディネーター、地域外の専門家などで構成する新学科カリキュラム準備委員会を設置し、週に１回の定例会議を実施した。

委員には、主幹教諭・教務部長・探究推進担当・キャリア部副部長・２年担任・１年担任等、分掌のバランスにも配慮し、コーディネーターや学校と連携する公立塾のスタッフも加入した。また、地域内外から、様々な有識者・応援者にも会議に参加してもらい、助言・アドバイスをいただいた。

ⅱ）新学科カリキュラム

新学科カリキュラムを以下のように策定した。

■ 地域共創科 2年間のカリキュラム

※ ゼミは別資料（未整理）
※伴走体制についても別紙、要作成
※ヒアリング時は撮影、アーカイブに

①目標（仮）一人ひとりの意志を起点に、多様な仲間や人材とグローカルに地域を共創（地域の課題解決・価値創造 等）し、地域に進化・変化が起きる。

②時間　　地域未来共創：210時間（6時間×35週）、グローカル未来共創：150時間（6時間×25週）

③内容　　地域の大人とのプロジェクト実践、グローバルな課題や取り組みについての調査、プロジェクトと自己のリフレクション、レポート課題

	月	週	配当時間 座学	配当時間 実習		学習項目（単元）	到達目標	評価方法	ゼミ	探究
2年 地域未来共創		1								
	4	2	6			オリエンテーション・ゼミ選び			先輩から学ぶ	広い視野でアイディアを練る
		3		6		プロジェクト基礎講座（テーマ設定）				
		4		6		テーマから課題とゴールを設定する 情報収集 or ゼミでの先輩プロジェクト体験	テーマから課題とゴールを設定する（地域にインパクトを与えられるような、高校生ならではの価値を意識する） 地域での振る舞いを身につける	ルーブリックに基づく資質・能力の形成的評価 面談・見取りによる客観評価と自己評価		
	5	1								
		2		6						
		3		6						
		4		6						
	6	1		6						
		2		6						
		3		6						
		4		6						
	7	1	6			3年生最終発表・ 水谷さんによる演習（地域と社会の力学）				
		2	6							
		3	6			オリエンテーション・テーマ発表・チーム決め・面談			自分（たち）でやってみる	足元で実践（実験・試行）
		4								
	8	1				ローカルプロジェクト （ゼミ内で進捗報告）	【実践目標】ABCの基準を書く A：地域の大人とともに共創するマイプロ実践のアクションを1回以上実施できている。 【成長目標】 主に「主体性」と「協働性」、「探究性」の資質能力が主観と客観の両面で1つ以上伸びている	ルーブリックに基づく資質・能力の形成的評価 面談・見取りによる客観評価と自己評価		
		2								
		3		6						
		4								
	9	1		6						
		2		6						
		3		6						
		4								
	10	1		6						
		2		6						
		3		6						
		4		6						
	11	1		6						
		2		6						
		3		6						
		4								
	12	1		6		2年生中間発表 グローバル視点を取り入れたプランに更新		成果の質と量、メンバーの成長を評価軸として講評		
		2		6						
		3	6			レポート課題・PJ振り返り・面談	テーマに対するリフレクションによって、自分がそのテーマに取り組む意義、地域・社会にとっての意義を認識できる	レポート評価		世界と関連づけて実践
		4								
	1	1								
		2		6		オリエンテーション・グローバル視点を取り入れたプランに更新	【実践目標】 ＜還元還流＞ 世界の課題解決や 価値創造の学びから 島前に還元できることを 見出して実践できる or ＜実証実験＞ 世界の課題解決や 価値創造のために 島前地域で足元から できることを見出して 実践することができる 【成長目標】 資質能力が主観と客観の 両面で1つ以上伸びている	ルーブリックに基づく資質・能力の形成的評価 面談・見取りによる客観評価と自己評価		
		3		6						
		4		6						
	2	1		6						
		2		6		グローカルプロジェクト				
		3		6						
		4		6						
	3	1	6							
		2	6							
		3	6			レポート課題・PJ振り返り・面談				
		4								
3年 グローカル未来共創		1								
	4	2	6			オリエンテーション・2年生にゼミ紹介			後輩に引き継ぐ	
		3		6		グローカルプロジェクト （ゼミ内で発表リハ）				
		4		6						
	5	1								
		2		6						
		3		6						
		4		6						
	6	1		6						
		2		6						
		3		6						
		4								
	7	1	6			3年生最終発表・プロフェッショナル演習 （イネーブルorコーディネーターパタラグ）		成果の質と量、共創のプロセス、グローカルな価値を指標に表彰		
		2	6							
		3	6			レポート課題・リフレクション（自分）・面談		レポート評価		
		4								
	8	1								
		2								
		3	6							
		4								
	9	1		6		論文執筆・後輩への伴走	【実践目標】 A：他者が読んでそのプロジェクトの意義と成果が理解できる、客観的で一貫性のある論文を書く B： C： 【成長目標】 A： B： C：		後輩に伴走する	論文に表現する
		2		6						
		3		6						
		4								
	10	1		6						
		2		6						
		3		6						
		4		6						
	11	1		6						
		2		6						
		3		6						
		4								
	12	1	6			2年生中間発表 論文提出　※Googleサイトにアーカイブ		レポート評価		
		2	6							
		3	6			振り返り				
		4								
	1	1								
		2								
		3								
		4								
	2	1								
		2								
		3								
		4								
	3	1								
		2								
		3								
		4								

研究開発計画２：学校経営目標推進委員会の設置

１．仮説

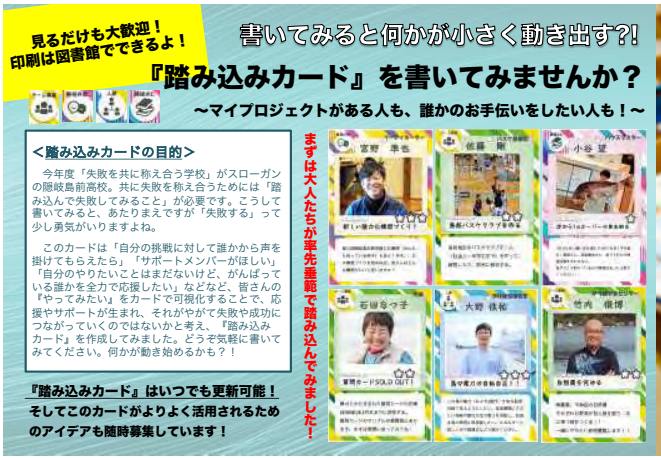
地域共創科を新設するにあたり、しっかりと学校経営に位置付け、学校全体として推進していく必要がある。ついては、地域共創科にもつながる学びを学校全体としても整えていくために、今年度より学校経営目標推進委員会を設置し、より力強く推進していける体制を整える。

２．実践

今年度の学校経営スローガン「失敗を共に称え合う学校」を推進するために、学校経営目標に基づいて３つのプロジェクトチームを設定した。

ｉ）失敗共創プロジェクト

これまでの強みでもある「踏み込み（挑戦）」をさらに強化すべく、失敗共創プロジェクトを発足した。このプロジェクトでは、生徒・教職員の全員が失敗を恐れずにそれぞれの尺度で踏み込み（挑戦）ができるような取り組みを行った。①一人ひとりの踏み込み（挑戦）テーマの共有では、踏み込みカードを作成し、校内に掲示した。



②失敗インタビューでは、「失敗」のハードルを下げ、ネガティブなイメージを払拭するために、価値ある失敗についてインタビューを行い、学校 HP で発信したり、学年通信で発信したりした。

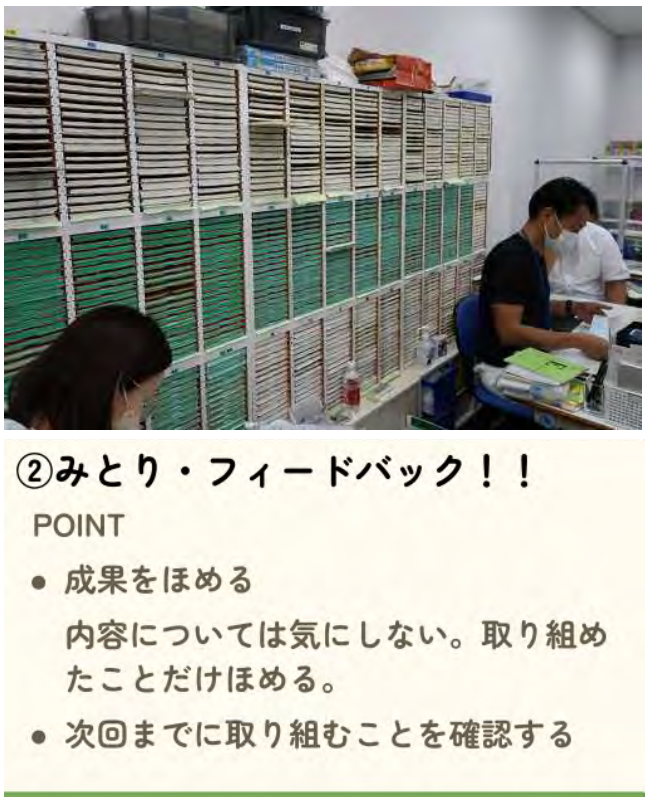
③失敗をと共に称え合う場をつくるでは、フィンランドに倣い、今年度より 10 月 13 日を失敗の日と制定し、学校行事として学校全体で失敗を共に称え合い、未来に向けての踏み込みを考える日をつくった。

ⅱ）振り返りプロジェクト

踏み込み（挑戦）が、やりっぱなしではなく、自身にとって実のある学びに昇華させるため、振り返りの習慣を身につけ、技術をあげるために、振り返りプロジェクトを発足した。本事業の運営指導（共創）委員でもある熊平委員の協力の下、振り返りの考え方や知識・技術を学び、日常の取り組みへと落とし込んでいった。

iii）授業魅力化プロジェクト

踏み込み（挑戦）・振り返りも含めて、すべての基盤となる教科の知識を身につけるための授業を改善する目的で、授業魅力化プロジェクトを発足した。主には、少人数の特徴を活かした、個別最適な学びを探究テーマとおき、視察なども行いながら、本校に適する個別最適な学びの実現について研究を深め、実践した。



これら３つのプロジェクトと新学科設置準備委員会の進捗について、学校経営目標推進委員会の隔週会議にて共有し、取りまとめ、学年会・教科会・運営委員会・職員会議等で適宜全教職員に情報を共有しながら進めていった。

研究開発計画３：普通科・地域共創科に向かうための新しい「総合的な探究の時間」の実施

１．仮説

来年度からの普通科・地域共創科の両学科に向かう基礎づくりや学科選択に向けて、１年生の総合的な探究の時間（夢探究）のカリキュラムを改訂し、来年度、学科が分かれてからの学びをスムーズにいけるようにしていく。

２．実践

昨年度から、カリキュラムの検討を始め、今年度の１年部での確認を経て、以下のようなカリキュラムに改訂し、実施した。また、ポイントとしては、年度末の学科選択を見越して、「普通科的な探究（教科の知識をベースに探究実践につなげる）」と「地域共創科的な探究（探究実践をベースに教科の知識につなげる）」を体感的に学べるような構成にして行った。

１年生の総合的な探究の時間（夢探究）のカリキュラム

●1年次共通カリキュラム「夢探究１」

月	週	実施日	使用コマ	A/B	時間	累計	夢探究	内容	夢探究以外		内容	備考
4月	4/4~10								＜春休み＞			
	4/11~17			B	0	0			・新入生オリエンテーション【2コマ】	行	人間関係づくり、お互いを知る（協働性のベースづくり）	
	4/17~23	4/20	4/13 4/20	A	2	2	夢探究オリエンテーション	・夢探究とは？ →自分がハンドルを握るマインド、夢（ will・理想）の姿になるために様々な経験や機会（ must も含めて）どう生かし、 can を増やすか ・自分の価値観を知る、他者の価値感を知る、受けとめる。				
	4/24~4/30			B	0	2			・歩こう会【6コマ】 （Fell"O Walk）	行	・海士町内をグループに分かれて散策（協働性のベースづくり） ・Fell"O Walkの視点を入れたオリエンテーション &振り返り （市川力さんゲストで来校）	
5月	5/1~7					2		＜GW＞				
	5/8~14			B	0	2						
	5/15~21	5/18	5/18	A	1	3		○ミッション型の探究① オリエンテーション ・ミッション型探究の目的と概要について ・地域探究のための基礎講座①（地域に出るときに大切にしたい姿勢や作法） ・インタビューの方法（映像アーカイブでもいいかも）				
	5/22~28	5/23	5/25 6/8 6/15	A	3	6		○ミッション型の探究① 地域実践 ・島前三町村各地区の魅力発信（ 1地区2ペア、合計12地区） ・三町村の各地区に分かれて、ペアでインタビュー（ 5/23 & 6/6予定） ・インタビュー中間振り返り（ 6/1予定）				
6月	5/29~6/4	6/1	6/1	A	1	7	地域からのミッションに応える形での探究①【9コマ】 （主体性「行動力、課題設定力」）		進路選択について① （学科選択）【1コマ】	HR	2年次に学科に分かれることへの意識付け、卒業するときを意識した行動（録画して、保護者と共有？）	2年次に学科選択があることを想定すると早めの動機付けが必要。
	6/5~11	6/6	6/22 7/15	A	2	9			進路選択について② （卒業後の進路）【1コマ】	HR	大学、短大、専門、就職、海外大学 等 進路別の先輩とのオンライントーク	
	6/12~18			B	0	9	※5/23、6/6は変則時程で月曜日授業実施					
	6/19~25			B	0	9		※授業はないが、この期間を有効に使って活動記録のまとめ、発表準備を行う				
	6/26~7/2					9			期末試験			
7月	7/3~7/10	7/6	07/22 08/24	A	2	11		○ミッション型の探究① 発表＆振り返り ・ペアで探究の成果を発表。探究の進め方についての振り返りと課題発見。 行動力など主体性についての振り返り（ 7/6予定） ※発表には地域協力者の方を招待 ※発表形式は各チームで決める（パワーポイント、イラスト、映像など）				
	7/11~17			B	0	11			リフレクション【2コマ】	HR	「ふりかえり」について、重要性を認識し、そのスキルを体得する。教職員も生徒も関係なく、「よりよくふりかえる」ために協働的に学ぶ。教員研修もセットで。探究だけでなく、各教科やクラス経営、進路支援などでも活用できるように。 （筑平美香さん来校予定）	
	7/11~17			B	0	11			進路講演会	行	異なる他者を巻き込みながらチームをつくっている人に、「ふりかえりと心理的安全性」関連の講演	毎年、この時期のテーマを固定
	7/18~24			B	0	11			キャリアパスポート	HR	「自分」に矢印を向けた振り返り	オンラインで講師に再登場？
	7/25~31					11			＜夏休み＞			
8月	8/1~7					11			島前での宿泊研修	行		
	8/8~14					11			グローバル探究	他	夏季休業期間中に海外国にて各種プログラムに参加	任意参加者
	8/15~21					11			ローカル探究	他	夏季休業期間中にシェアハウスに住みながらマイプロに近い分野で島で働く	
	8/22~28	8/24	8/31	B	1	12		○ 教科の視点を活かす地域探究（オリエンテーション） ・目的、概要について ・地域探究のための基礎講座②「教科の視点を生かす」				
	8/29~9/3					12	「教科の視点を生かす」探究 ※普通科の視点を意識する 夢探究【6コマ】 各教科【 コマ】※変調整	＜学園祭準備・学園祭＞				
9月	9/4~10	9/7	9/7	B	1	13		○ 教科の視点を活かす地域探究（探究実践） ・三町村ゲストとの対話の時間 ・地域の題材と結びつける場合、フィールドワークも可能 ・物語ゼミ（地歴国）、エネルギーゼミ（数物）、家ゼミ（家生） ・ゴールはゼミ担当者が設定、生徒自身がゼミを選択				各教科からも授業コマを捻出
	9/11~17	9/14	9/14 9/21	B	2	15						各教科からも授業コマを捻出
	9/18~24	9/21	10/5	B	1	16						各教科からも授業コマを捻出
	9/26~10/2					16		＜2学期中間試験＞				
10月	10/3~9	10/5	10/12	B	1	17		○ 教科の視点を活かす地域探究（振り返り）	進路選択について③（学科選択）	HR	主に直前に迫った進路選択に向けてのガイダンス（録画して、保護者と共有？）	各教科から捻出
	10/10~16			B	0	17						
	10/17~23	10/26	10/19 10/26	A	2	19		○ミッション型の探究② 地域共創実践インターンシップ （事前学習） ・地域探究のための基礎講座③「情報活用力・批判的思考力」 ・事前にインターン先の課題（現状）をヒアリング ・費用対効果・実現可能性を多面的に考えて実践				
	10/24~30	11/2	11/2	A	1	20			地域共創実践インターンシップ 事前学習【1コマ】（11/2）	HR		
11月	10/30~11/6			B	0	20	地域からのミッションに応える形での探究②（探究性重視）					
	11/7~14			B	0	20		地域共創実践インターンシップ 【18コマ】11/15、11/16、11/17		行		
	11/15~20	11/15	11/9	B	1	21	※夢探究【6コマ】 ※HR【2コマ】 ※学校行事【 18コマ】 ※特に情報活用力、批判的思考力伸ばせるようなプログラム	○ミッション型の探究② 地域共創実践インターンシップ （事後学習） 地域共創実践インターンシップ活動のまとめ、発表準備 ※発表形式は各チームで決める（パワーポイント、イラスト、映像など）	地域共創実践インターン 事後学習【1コマ】（11/15）	HR		
	11/21~30	11/30	11/30 12/7	B	2	23		○ミッション型の探究② 地域共創実践インターンシップ（最終発表） ※発表には地域協力者の方を招待				
	12/1~12/6					23		＜2学期期末試験＞				
12月								【学科選択】				
	12/7~11			B	0	23			学科選択に向けた面談	HR		
	12/12~18	12/14	12/14 12/21	A	2	25	これまでの振り返り/2年生に向けて	・投計でねらいとした /自分で定めた /それ以外の偶発的なコンピテンシーの伸び ・自分の興味関心の変化 ・探究を自走できる状態になるために、今の自分の課題と、 2年スタートに向けてそれをクリアするためのアクションプラン（ HOWを決める） ・これまでの探究活動を踏まえて、マイプロのテーマを見つける（ WHATを決める）				
	12/19~25			B	0	25			キャリアパスポート	HR	「自分」に矢印を向けた振り返り	
	12/26~1/1					25		＜冬休み＞				
	1/2~8					25						
1月	1/9~15	1/11	1/11 1/18	A	2	27						
	1/16~22			B	0	27						
	1/23~29	1/25	1/25 2/1	A	2	29		○2年生に向けてマイテーマ（探究テーマ）を定める ・情報収集、仮説・検証 →新たな仮説… ・can（将来）を生かす視点				
2月	1/30~2/5			B	0	29						
	2/6~12	2/8	2/8 2/15	A	2	31						
	2/13~19			B	0	31						
	2/20~26					31		＜学年末試験＞				
3月	2/27~3/5	2/22	2/22 3/15	A	2	33		アウトプット作成				
	3/6~12			B	0	33			3/14探究発表会	行		
	3/13~19	3/15	3/22	A	1	34		最終振り返り	キャリアパスポート【1コマ】 リフレクション【1コマ】	HR	「自分」に矢印を向けた振り返り	
	3/20~26					34		＜春休み＞				
	3/27~4/2					34						

①普通科的な探究（教科の知識をベースに探究実践につなげる）

普通科的な探究では、文系教科の教職員で構成し、テーマを設定した「物語ゼミ」、理系教科の教職員で構成し、テーマを設定した「エネルギーゼミ」、文理教科の教職員で構成し、テーマを設定した「家ゼミ」に分かれて実施した。エネルギーゼミでは、「島前高校が電力で自立するためにはどうしたらいいか？」という問いに対して、ゼミの中でチームを分けてそれぞれの観点から探究を深めた。一部の生徒は、単元が終わっても継続的に探究を進め、地元企業と連携し、高校生事業部として活動を続けている。

隠岐島前１年生２人

地元企業と連携 学校に設置計画

高校生が太陽光発電

②地域共創科的な探究（探究実践をベースに教科の知識につなげる）

地域共創科的な探究では、３日間三町村の各事業所や役場等に受け入れをお願いし、ミッションを与えられ、それを達成するために探究的に学ぶ地域共創実践活動を実施した。

実際にこれに参加したことで、普通科志望から地域共創科志望への変更が出るなど、学科選択にも活かせられる形となった。

研究開発計画４：探究学習の「評価」研究

１．仮説

地域共創科の新設にあたり、探究学習の「評価」についても探究を深め、適する評価ができるようにする必要がある。新学科設置準備委員会を中心に、運営指導（共創）委員の専門家にも入っていただき、新しい評価基準を設けて来年度をスタートする。

２．実践

毎週の定例会議の中で議論を深めながら、専門家にも適宜入っていただく中で、以下のようにまとめている。来年度は、運用していく中で、適宜振り返りを行い、改善していきたい。

【行動評価ルーブリック】

	場面		行動評価基準	質問	評価ツール	3観点	能力
1	プロジェクトに臨むモチベーションを高める	A	自分にとっての活動の意義（実現したいこと、身に付けたいこと）が明確になっている。	あなたのプロジェクトを、あなたが行う理由はなんですか？またそのプロジェクトを通して、実現したいことはなんですか？	面談	学びに向かう姿勢	学びの意欲
		B	活動が自分にとってどういう意義があるのか、今後自分の人生の中の何に繋がっていくのかを考えている。				
		C	「やらないといけないからやる」という消極的な姿勢でいる。				
2	ビジョンを作る	A	取り組みを通して、地域の誰が何によって喜ぶのかを明確に設定できている。	あなたのプロジェクトはどんなものですか？ そのプロジェクトによって、誰が喜んでくれますか？（あくはなぜ喜んでくれるのですか？	ノート／レポート	思考・判断・表現	地域貢献意識
		B	取り組むことが、地域に役立つ部分があるのかを確認している。				
		C	取り組むことが、自分にしか意味のないことになっている。				
3	テーマを決める	A	今までの経験の中で、よかったことだけでなく驚きや怒りなどで心が動かされたことからも自分の興味があることを探している。	あなたのテーマはなんですか？ そのテーマに関連して、あなたにはどんな経験があり、その時にどんな感情がありましたか？	ノート／レポート	思考・判断・表現	省察力
		B	今までの経験を振り返り、よかったこと、好きなことから自分の興味があることを探している。				
		C	自分を振り返ることなく、思い入れのないテーマを設定している。				
4	関わる分野について詳しく知る	A				思考・判断・表現	批判的思考力
		B					
		C					
5	プロジェクトを具体化する	A	興味のあることについて、いろいろな側面から検討し地域の現状も把握した上で、具体的な目標と目標達成の方法が考えられている。	あなたのプロジェクトによって、誰（何）がどんな状態になることを目標としていますか？どんな情報からその目標を設定しましたか？	ノート／レポート	思考・判断・表現	情報活用力
		B	興味のあることについて、世の中で話題になっていることや少し専門的な議論に触れ、いろいろな側面から検討して活動内容を決めている。				
		C	興味のあることを見つけても、やりたいことが漠然としていたり、具体的すぎたりしてプロジェクトに取りかかることができない。				
6	企画を立てる	A	フィールドワークや実験などで本物に触れ、自分の足で十分に情報を集めて活動内容を決めている。	目標を達成するために、具体的にどんな活動をしますか？ どんな情報をもとにその活動を計画しましたか？	ノート／レポート	知識・技能	行動力 情報活用力
		B	フィールドワークや実験などで本物に触れるようにし、そこで得た自分自身のリアルな感覚をもとに考え、活動を進めている。				
		C	資料からの情報に頼り、リアルなものに十分に触れることができていない。				
7	記録を残す	A				思考・判断・表現	情報活用力
		B					
		C					
8	企画を実現する	A	やるべきことを具体的に整理し、ゴールから逆算して無理のないスケジュールで進められている。	ゴールはいつ、何ができている状態ですか？ 今週やったことは？ 次にやることは？	週報 面談	知識・技能	行動力
		B	まずはいろいろな方法で考えの情報を入れ、次にやるべきことを見つけることから始めている。				
		C	はじめによく考えたり計画したりしようとするあまり、延々と悩し込んだり考え込んだりしてしまい、一向に活動を進められていない。				
9	進捗を確認する	A	現在の進み具合や方向性を確認したよで、活動をさらに発展させるような仕掛けを加えることができている。	今週やったことは？ 今週出てきた課題は？ 次にやることは？	週報 ノート	思考・判断・表現	粘り強さ
		B	ゴールに対する現在の進み具合や方向性を確認する時間をとり、取り組み方を柔軟に変更できている。				
		C	ゴールと異なる方向に進んでいたり、停滞しているがその状況に気づいていない、または気づいただけで行動を起こしていない。				
10	外部の人と一緒に取り組む	A	関わる人の考えを出し合った上で、興味や強みが活きる方法をお互いに考えて、活動に結びつけている。	（学習者へ/協力者へ） 一緒にプロジェクトに参加している人たちからどんなことで信頼を得られましたか？ みんなの興味や強みを活かすことができましたか？	協力者からのコメント	学びに向かう姿勢	対話力 共創力 受容力
		B	関わる人や現場の意見・やり方を尊重し、信頼を積み上げることができている。				
		C	自分の考えややりたいことを推し進めようとして、関わる人に信頼されていない。				
11	障害を乗り越える	A	妥協せずに話し合いと実践を重ねて粘り強く解決している。	今週やったことは？ 今週出てきた課題は？ 次にやることは？	週報 ノート	学びに向かう姿勢	粘り強さ
		B	現状とゴールを俯瞰して、解決するための手立てを１つ試行している。				
		C	障害を理由に実践そのものを変更したり、妥協してしまっている。				
12	整理する	A	集めた情報の特徴や目的に合わせて、効果的に整理・分析できる方法を探し、取り入れている。	今回の活動では、目標に対してどんな成果がありましたか？活動を通して分かったことはなんですか？	ノート	知識・技能	批判的思考力
		B	集めてきた情報やそれについての気づきを書き出し、目に見える形にしている。				
		C	集めた情報を効果的に整理できず、有益な発見が得られていない。				
13	考察する	A	得た情報やそこからの発見について他の人と話し、自分の理解に偏りや誤りがないかを確認したり、他の視点・解釈を取り入れたりしている。	活動を通して分かったことを俯瞰すると、どんな特徴が見えてきますか？それに関連してどんな情報や他者の意見を得ましたか？	ノート／レポート	思考・判断・表現	批判的思考力
		B	意味がありそうな特徴や傾向をつかむことができている。				
		C	集めた情報や実践から何が言えるかをつかめていない。				
14	成果をまとめる	A	まとめの仕上がりを妥協せず、細部にこだわってまとめあげる。	一連の活動はどんなものの？ その結果、新たに気づいたことは？	発表 論文	思考・判断・表現	学びの意欲 表現力
		B	プロジェクトの中で最もみんなに知ってもらいたいことをメインメッセージとし、他の情報はそれを支えるための位置付けとしてまとめられている。				
		C	メインメッセージとそれを支える情報を、分かりやすい構成でまとめることができていない。				
15	プロジェクトを通した自分の成長を振り返る	A	うまくできたこと、できなかったこと、できるようになったことを踏まえて、学んだこと、成長したことを考えられている。	プロジェクトを振り返ってうまくできたこと、できなかったことはなんですか？ どの資質能力が成長したと思いますか？何を振り返ってそう思いますか？	面談 レポート	学びに向かう姿勢	省察力
		B	プロジェクトでやってきたことを俯瞰して、うまくできたこと、できなかったこと、できるようになったことを考えられている。				
		C	プロジェクトを俯瞰してうまくできたこと、できなかったことなどを振り返ることができていない。				

【地域未来共創の目標】

地域に喜ばれるレベルのローカルな地域共創ができる

【評価基準】　※「地域未来共創」「グローカル未来共創」共通

観点	知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう姿勢
評価基準（概ね満足できる状態）	地域の諸課題に対して多面的・総合的に分析・理解し、課題解決に必要な知識・技能を身に付けている	地域における現代的諸課題を発見し、実践から得られた客観的根拠に基づいて共創的に解決している	課題の解決を目指して自ら学び、健全で持続可能な社会の形成や新たな創造的価値の提案に向け、主体的かつ協働的に取り組んでいる
資質・能力	課題設定力、課題に関する知識	批判的思考力、情報活用力、表現力	行動力、粘り強さ、省察力、学びの意欲、共創力、地域貢献意識、グローカル意識
評価の場面	主にレポート、行動、論述試験から評価	主にレポート、発表から評価	主に行動から評価
レポート　*学期末試験	・テーマに関する知識の深さ	・情報をもとにした考察の客観性と独自性の高さ ・地域や社会との関連づけの強さ	—
単純問題・論述問題 *学期末試験	・教科書内容の理解	・教科書内容の活用	—
面談			
行動	—	・ルーブリックに基づく	・同左

研究開発計画５：成果目標、活動指標の検証

１．仮説

本事業の申請・計画時に設定した成果目標・活動指標について、適宜検証し、取り組み内容の改善に努める。

２．実践

年に２回とっている「魅力化評価アンケート」で定量的に検証し、年に２回開催した運営指導（共創）委員会、年に６回程度のコンソーシアム会議などで定性的に検証を行った。

その中で、今年度の探究学習の集大成でもある３月に行った探究成果発表会に招待した運営指導（共創）委員も含めた有識者のコメントを以下に抜粋する。

＜市川力氏＞

・運営はほぼ高校生で今年は質が違うと感じた。

・子供たちの中から「探究はめんどくさい」「どうせこの時間があるのならやっておこう」の言葉が出たことは、学びの成果。 自主自立が高まっている。

・面倒くさいことがあっても、うまくいかないことがあっても、このプロセスっていうのは次へのステップとなり、自分が挑戦へ一歩踏み出しているというマインドセットを、学びを通して培うことができるということを、目の当たりにした。

＜阿部裕志氏＞

・「学力」とはは何だろうかって思うところはある。

・企業研修を計画する中で、自分の行動したことを自分の言葉で語り、共感や違和感を覚えながら改善のサイクルをぐるぐる回すことが一番必要ではないかと考える。今日の発表会はこの話と全く同じで、これからの社会で求められる力の育成に向かっていると実感した。

＜松尾奈美委員＞

・地域の大人の方と先生方が、生徒と同じ発表の場に立っているところがすごい。先生が探究の姿を見せていらっしゃることで、先生方への生徒たちの信頼感というのもすごく感じた。

＜喜多下悠貴委員＞

・生徒と教員が同じ言葉を使って議論する場面を見て、表層的ではない、根底のプログラムのコードが変わり出したっていう感覚を強く覚えた。

・失敗をして行くっていうことに対するイベントの位置づけは面白い。どうしても成果発表会というイベントは、一過性のものだったり、打ち上げ花火みたいな形で見られることがあるが、持続的に問題意

識を強く持つに至っていることはすごく大きいと感じる。
・高校という環境で、高校生という立場で探究のプロセスを回すことがなぜ重要なのかを、大人が言語化して共有することができている。

＜熊平美香委員＞
・ただ踏み込むだけでなく、探究を繰り返して共創に至る一連の流れが、ちゃんと生徒たちも教員たちもハマっていて、それが前提になっているところがすごい。
・何かを始めたら、想定外のことが起きてほぼ計画通りにならない時に困って止まる感じではなく、困ったらやり変えればいいという考え方は、自己肯定感の源泉となる。
・失敗を思い出で終わらせず、繰り返し挑戦して学習し、賢くなってる自分たちに気付くことは、自己肯定感、自己効力感として生徒に根差し、主体性はさらに高まっていくだろうと感じる。

＜藤井千春委員＞
・振り返りで共に創っていく循環がきちんとつながっていて、踏み込みが増えれば増えるほど、きちんとした深い振り返りに繋がり、しっかりと自分の生き方に繋がる、こういう条件ができたと感じた。
・この特にこの３年間、先生たちの成長・変化が大きい。前は、もうちょっと授業を頑張ってほしいということを話したが、今日は先生が生徒の前で自身の授業探究をさらけ出すことで、生徒たちとの信頼関係が築かれていくのではないか。
・今、島前高校のような規模の高校が全国で増えている。関東圏も高校の統廃合がものすごく進んでいる。島前高校はこれからの小規模高校の一つのモデル。全国的なモデルにもなっているんじゃないか。

研究開発に係る評価

１．生徒および教職員含む大人へのアンケート調査

研究開発における検証・評価については、島根県と協働で開発した「地域・社会に開かれた教育を実現するため」の調査である「高校魅力化評価システム」を活用する。今年度は１回目調査として「①学習活動（明示的なカリキュラム）」、「②学習環境（学びの土壌：非明示的なカリキュラム）」、「③生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）」、「④生徒の行動実績（資質・能力の発揮）」に関して６月に、第２回調査として「③生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）」、「④生徒の行動実績（資質・能力の発揮）」に関して、調査対象を生徒に限定し、３年生は１２月に、１・２年生は２月に実施した。

（１）１回目調査結果の概略　※関連資料はp. 39～44

			主体性	協働性	探究性	社会性
高校としての活動指標	③生徒の自己認識	R2 年度	64.6 %	78.0 %	63.1 %	69.0 %
		R3 年度	69.2 %	79.6 %	65.5 %	73.7 %
		R4 年度	**69.0 %**	**76.4 %**	**73.0 %**	**69.1 %**
	① 行動実績	R2 年度	76.4 %	75.0 %	67.5 %	69.2 %
		R3 年度	78.8 %	79.9 %	69.8 %	70.7 %
		R4 年度	**79.3 %**	**78.0 %**	**74.0 %**	**76.3 %**

「③生徒の自己認識」については、すべての項目で 75％以上となること目指していたが、「協働性」と「探究性」では上回ったものの、「主体性」と「社会性」では目標に及ばなかった。

「協働性」の個別項目を見てみると、「自分とは異なる意見や価値を尊重することができる（91.4%）」で高い数値が出た。探究活動の中で他者の意見に耳を傾けながら異なる意見を尊重する活動の成果が出たものと考える。

数値が 70％に到達しなかった「主体性」や「社会性」の個別項目を見てみると、「自分にはよいところがあると思う（77.0%）」、「現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる（78.9%）」、「うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む（78.9%）」など目標を超えた項目もあったが、「私は自分自身に満足している（50.0%）」という結果から、自分の能力を十分に活かすことができていないと感じる生徒が多いものと推測する。

「社会性」に関わる自己認識は、目標値に達しなかったものの、県内他校に比べて肯定的回答割合が高い。グローカル意識を聞く項目の中でも「地域の課題と世界の課題は関連していると思う（77.6%）」、「将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい（77.6%）」といった高いスコアから、本校の取り組みの成果が生徒の期待値として現れているものと考える。

「④生徒の行動実績」については、全ての項目で 83％以上となることを目指していたが、昨年度同様、全ての項目で目標を上回ることができなかった。しかし、「探究性」については数値が大きく伸

びており、探究的な学習の成果が表れつつあると考えられる。また、「授業でわからないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた（82.9%）」、「友人などから、意見やアドバイスを求められた（78.9%）」、「自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた（77.0%）」、「先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした（87.5%）」となっており、他者と関わりながら探究性を深めていくことができていることが伺える。

調査結果の傾向は過年度と大きく変わらないが、「③生徒の自己認識」及び「④生徒の行動実績」ともに「探究性」のスコアが年度を経るにつれて上昇しており、事業の成果が現れていると分析する。

（２）令和４年度１回目調査・２回目調査結果の比較　※関連資料はp.45～46

「③生徒の自己認識」については、「主体性」と「探究性」に関わる自己認識で１年生のスコア低下が目立った。特に主体性の自己肯定感・自己有用感に関する、「自分には良いところがあると思う」や、探究性の情報活用能力に関する「情報を、勉強したことと関連付けて理解できる」のスコアが大きく下がった。半面、２・３年生は「社会性」に関わるスコア上昇が目立つ結果となった。

「④生徒の行動実績」については、全体的に高い肯定的回答割合であるものの、「③生徒の自己認識」同様に１年生のスコアが低下し、２・３年生のスコア上昇が目立つ。

「③生徒の自己認識」と「④生徒の行動実績」ともに、同様なスコア変動がみられた直接的な要因は特定できないが、学年集団の雰囲気が少なからず影響しているのではないかと推測される。

２．グローカル志向の指標

下表は、公益財団法人日本英語検定協会主催の実用英語技能検定合格状況をまとめたものである。過去４年間を比較すると、技能検定へ挑戦する生徒数及び合格者数が増加しており、グローバル・コミュニケーションへの関心の高まりがうかがえる。

実用英語検定合格者数推移

	令和４年度				令和３年度				令和２年度				令和元年度			
	１回	２回	３回	合計	１回	２回	３回	合計	１回	２回	３回	合計	１回	２回	３回	合計
２級	7	1	2	10	6	1	0	7	2	4	5	11	6		1	7
準２級	6	3	10	19	7	2	5	14	4	4	8	16	1	1	4	6
３級	4		2	6	0	3	0	3	0	1	0	1	0		3	3

３．令和４年度の目標設定値と達成状況

指標	目標	達成状況
卒業後のグローカルな進路選択者（スーパーグローバルユニバーシティや地域協働系学部への進学割合）	15%	16.4%（９名）
卒業後も隠岐島前地域に積極的に関わろうとする生徒数（関係人口数）	80 人	140 人 （175%）
主体性、協働性、探究性、社会性における「自己能力認識」で肯定的意見が 75％以上	74%	主体性:69.0% 協働性:76.4% 探究性:73.0% 社会性:69.1%
主体性、協働性、探究性、社会性における「行動実績」で肯定的意見が 80％以上	78%	主体性:79.3% 協働性:78.0% 探究性:74.0% 社会性:76.3%
安心・安全の土壌、多様性の土壌、対話の土壌、開かれた土壌における生徒の肯定的意見が 90％以上	87%	主体性:89.6% 協働性:93.4% 探究性:89.3% 社会性:91.9%
学び共創フォーラムへの参加者数	50 人	127 人

運営指導委員会記録

第１回　運営指導委員会

（1）内容

日時：　令和４年７月１２日（火）　8：45～ 9：35

次第：　1．開会行事

① 校長挨拶

② 委員紹介

③ 事務連絡

2．議事・協議

隠岐島前高等学校事業説明

① 令和４年度研究開発の概要

② 令和４年度研究計画

③ 令和４年度実施状況

④ その他

3．閉会行事

（2）運営指導委員からの主な指導・助言

本会は、地域との協働による高等学校教育改革推進事業の運営指導委員会も兼ねて実施した。両委員から、地域との協働による高等学校教育改革推進事業での取り組み成果を、普通科改革支援事業において新設した「地域共創科」での探究活動での継承を望む声が多数上がった。

第２回　運営指導委員会

（1）内容

日時：　令和５年３月１４日（火）　16：30～ 18：00

次第：　1．開会行事

（1）校長挨拶

（2）事務連絡

2．議事・協議

隠岐島前高等学校事業説明

（1）令和４年度実施状況

（2）その他

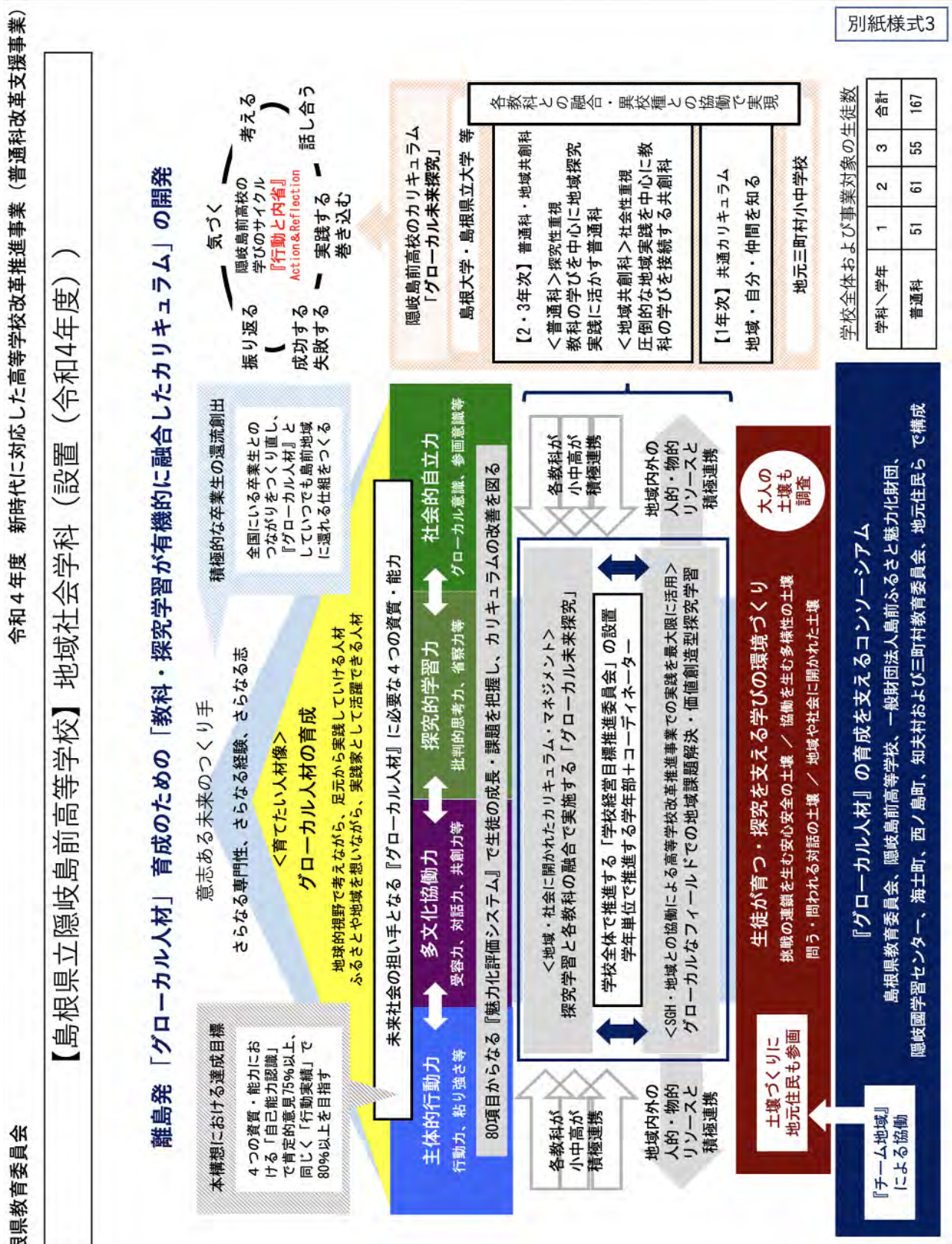
3．閉会行事

（2）運営指導委員からの主な指導・助言

本会は、探究成果発表会の後に行った。発表会の感想では、P23-24 に記載の通りだが、地域共創科については、主に伴走体制をどのようにつくっていくのかについて指導・助言をいただいた。

資料

（1）構想概念図

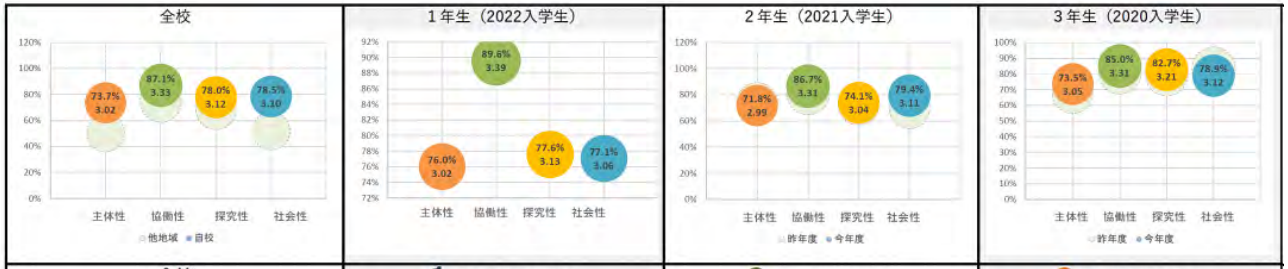

島根県教育委員会
令和４年度　新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）
別紙様式3
【島根県立隠岐島前高等学校】地域社会学科（設置（令和4年度））
離島発「グローカル人材」育成のための「教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」の開発
本構想における達成目標
４つの資質・能力における「自己能力認識」で肯定的意見75%以上、同じく「行動実績」で80%以上を目指す
意志ある未来のつくり手
さらなる専門性、さらなる経験、さらなる志
積極的な卒業生の還流創出
全国にいる卒業生とのつながりをつくり直し、『グローカル人材』としていつでも島前地域に還れる仕組をつくる
<育てたい人材像>
グローカル人材の育成
地球的視野で考えながら、足元から実践していける人材
ふるさとや地域を想いながら、実践家として活躍できる人材
未来社会の担い手となる『グローカル人材』に必要な４つの資質・能力
主体的行動力
行動力、粘り強さ等
多文化協働力
受容力、対話力、共創力等
探究的学習力
批判的思考力、省察力等
社会的自立力
グローカル意識、参画意識等
80項目からなる『魅力化評価システム』で生徒の成長・課題を把握し、カリキュラムの改善を図る
振り返る
成功する
失敗する
気づく
隠岐島前高校の学びのサイクル
『行動と内省』
Action&Reflection
考える
話し合う
実践する
巻き込む
隠岐島前高校のカリキュラム
「グローカル未来探究」
島根大学・島根県立大学　等
【2・3年次】普通科・地域共創科
<普通科>探究性重視
教科の学びを中心に地域探究実践に活かす普通科
<地域共創科>社会性重視
圧倒的な地域実践を中心に教科の学びを接続する共創科
各教科との融合・異校種との協働で実現
【1年次】共通カリキュラム
地域・自分・仲間を知る
地元三町村小中学校
学校全体および事業対象の生徒数
学科＼学年 | 1 | 2 | 3 | 合計
普通科 | 51 | 61 | 55 | 167
各教科が小中高が積極連携
地域内外の人的・物的リソースと積極連携
<地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント>
探究学習と各教科の融合で実施する「グローカル未来探究」
学校全体で推進する「学校経営目標推進委員会」の設置
学年単位で推進する学年部＋コーディネーター
<SGH・地域との協働による高等学校改革推進事業での実践を最大限に活用>
グローカルなフィールドでの地域課題解決・価値創造型探究学習
各教科が小中高が積極連携
地域内外の人的・物的リソースと積極連携
生徒が育つ・探究を支える学びの環境づくり
挑戦の連鎖を生む安心安全の土壌 ／ 協働を生む多様性の土壌
問う・問われる対話の土壌 ／ 地域や社会に開かれた土壌
大人の土壌も調査
土壌づくりに地元住民も参画
『グローカル人材』の育成を支えるコンソーシアム
島根県教育委員会、隠岐島前高等学校、一般財団法人島前ふるさと魅力化財団、
隠岐國学習センター、海士町、西ノ島町、知夫村および三町村教育委員会、地元住民ら で構成
『チーム地域』による協働

（２）事業評価資料

令和４年度　高校魅力化評価システム（６月実施）結果

Details 詳細結果

① 学習活動（明示的なカリキュラム）

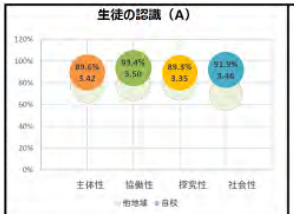


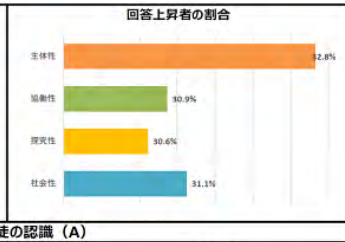
● 10pt以上の増加　● 0~10ptの増加　● 減少

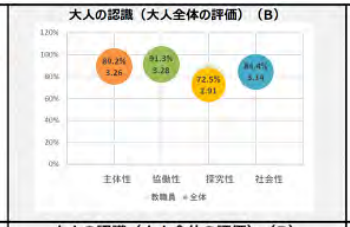
	全校			1年生（2022入学生）			2年生（2021入学生）			3年生（2020入学生）		
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年次との差
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合（%）	差(pt)	差(pt)
主体性に関わる学習活動	**73.7%**	**3.18**	**23.34**	**76.0%**	**2.36**	**20.68**	**71.8%**	**-1.87**	**28.4%**	**73.5%**	**5.88**	**18.11**
5 自主的に調べものや取材を行う	78.9%	0.53	12.79	70.8%	-13.38	6.55	80.0%	-4.21	23.5%	85.7%	13.49	21.43
6 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	68.4%	5.83	33.90	81.3%	18.09	34.82	63.6%	0.48	33.3%	61.2%	-1.74	14.80
協働性に関わる学習活動	**87.1%**	**4.57**	**12.44**	**89.6%**	**8.30**	**10.42**	**86.7%**	**5.38**	**33.3%**	**85.0%**	**4.17**	**5.87**
7 グループで協力しながら学習や調べものを行う	88.8%	-1.83	5.22	93.8%	2.52	2.68	89.1%	-2.14	23.5%	83.7%	-7.07	-7.40
8 活動、学習内容について生徒同士で話し合う	92.1%	5.05	3.61	95.8%	6.36	8.33	92.7%	3.25	27.5%	87.8%	6.27	0.26
9 活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う	80.3%	10.48	28.48	79.2%	16.01	20.24	78.2%	15.02	49.0%	83.7%	13.30	24.74
探究性に関わる学習活動	**78.0%**	**1.52**	**9.53**	**77.6%**	**4.80**	**10.19**	**74.1%**	**1.28**	**37.3%**	**82.7%**	**3.02**	**15.24**
10 自分の考えを文章や図表にまとめる	69.7%	2.11	6.72	68.8%	2.08	9.82	61.8%	-4.85	43.1%	79.6%	12.93	20.66
11 話し合った内容をまとめる	84.9%	3.57	7.28	87.5%	12.06	10.71	80.0%	4.56	35.3%	87.8%	0.72	10.97
12 活動、学習のまとめを発表する	75.7%	-2.76	10.38	72.9%	4.50	10.42	72.7%	4.31	41.2%	81.6%	-5.40	19.13
13 生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	81.6%	3.16	13.75	81.3%	0.55	9.82	81.8%	1.12	29.4%	81.6%	3.85	10.20
社会性に関わる学習活動	**78.5%**	**4.17**	**26.54**	**77.1%**	**7.49**	**16.96**	**79.4%**	**9.80**	**43.1%**	**78.9%**	**-4.42**	**18.79**
14 地域の魅力や資源について考える	86.8%	5.55	34.07	91.7%	17.98	23.81	85.5%	11.77	43.1%	83.7%	-8.92	15.82
15 地域の課題の解決方法について考える	82.9%	3.76	27.22	77.1%	6.91	14.58	89.1%	18.92	49.0%	81.6%	-9.11	19.13
16 日本や世界の課題の解決方法について考える	65.8%	3.20	18.33	62.5%	-2.41	12.50	63.6%	-1.28	37.3%	71.4%	4.76	21.43

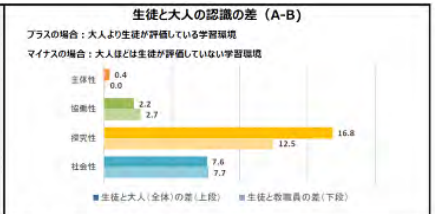
※3年生、4年生の「回答上昇者率」は「上昇率」シートで確認いただ

② 学習環境（学びの土壌：非明示的なカリキュラム）









● 10pt以上の増加　● 0~10ptの増加　● 減少

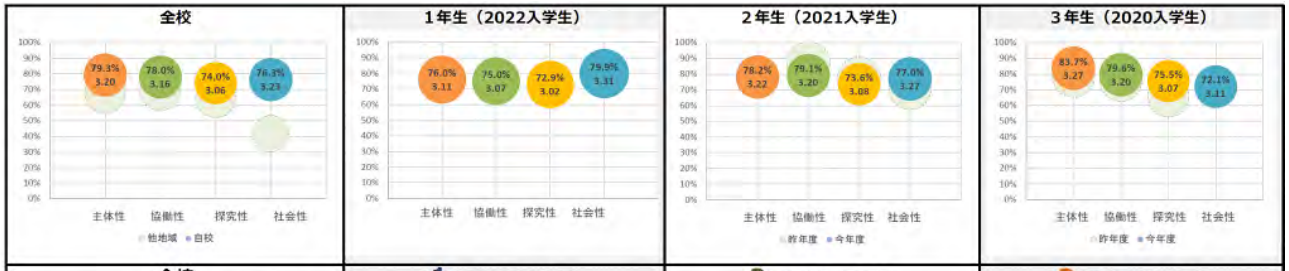
	生徒の認識（A）								大人の認識（大人全体の評価）（B）				生徒と大人の認識の差（A-B）		
	全体	昨年度との差	他地域との差	全体	学年別				全体	昨年度との差	うち教職員	昨年度との差	生徒と大人（全体）	生徒と教職員	
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	回答上昇者	1年生	2年生	3年生	4年生	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	差(pt)	大人質問項目
主体性に関わる学習環境	**89.6%**	**4.78**	**12.39**	**32.8%**	**90.6%**	**90.5%**	**87.5%**	**-**	**89.2%**	**-0.09**	**89.5%**	**-7.05**	**0.4pt**	**0.0pt**	
20 失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	88.2%	6.86	9.93	39.8%	85.4%	89.1%	89.8%	-	82.5%	-4.73	81.5%	-14.52	5.7pt	6.7pt	5 失敗を恐れずに挑戦することができている
21 挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	95.4%	7.62	4.58	33.7%	97.9%	98.2%	89.8%	-	100.0%	10.64	100.0%	4.00	-4.6pt	-4.6pt	13 挑戦する人に対して、応援することができている
33 目標や当事者意識を持って挑戦している人がいる	94.7%	4.09	13.58	29.6%	95.8%	94.5%	93.9%	-	92.5%	3.14	96.3%	0.30	2.2pt	-1.6pt	6 目標や当事者意識を持って挑戦することができている
34 地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	78.9%	7.00	21.79	38.8%	77.1%	83.6%	75.5%	-	-	-	-	-	-	-	-
30 人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	88.2%	0.39	26.35	26.5%	89.6%	87.3%	87.8%	-	75.0%	-7.98	74.1%	-17.93	13.2pt	14.1pt	7 自身の挑戦に、周囲を巻き込もうとしている
26 自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	94.1%	2.71	4.95	28.6%	95.8%	94.5%	91.8%	-	90.0%	-1.49	88.9%	-7.11	4.1pt	5.2pt	14 誰かが何かに挑戦しようと思ったとき、手を差し伸べている
35 周りの大人は、自分に関わることについて自分で決めることを尊重してくれる	94.7%	-	8.53	-	97.9%	92.7%	93.9%	-	95.0%	-	96.3%	-	-0.3pt	-1.6pt	22 子どもの自己決定を尊重できている
36 生徒の意見が学校での意思決定に反映される雰囲気がある	82.2%	-	9.45	-	85.4%	83.6%	77.6%	-	-	-	-	-	-	-	-
協働性に関わる学習環境	**93.4%**	**6.19**	**14.76**	**30.9%**	**94.8%**	**95.5%**	**89.8%**	**-**	**91.3%**	**6.14**	**90.7%**	**0.74**	**2.2pt**	**2.7pt**	
22 人と違うことが尊重される雰囲気がある	95.4%	6.91	15.44	34.7%	95.8%	98.2%	91.8%	-	97.5%	3.88	96.3%	0.30	-2.1pt	-0.9pt	8 人と違うこと、異なった意見を尊重している
23 ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	92.1%	7.93	9.91	29.6%	95.8%	92.7%	87.8%	-	90.0%	15.53	92.6%	4.59	2.1pt	-0.5pt	9 ありのままの個人を尊重している
27 自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	95.4%	4.75	13.59	28.6%	93.8%	98.2%	93.9%	-	90.0%	0.64	85.2%	-6.81	5.4pt	10.2pt	15 自分と異なる立場や役割を持つ人と交流している
28 立場や役割を超えて協働する機会がある	90.8%	5.18	20.08	30.6%	93.8%	92.7%	85.7%	-	87.5%	4.52	88.9%	4.89	3.3pt	1.9pt	16 立場や役割を超えて協働している
探究性に関わる学習環境	**89.3%**	**5.14**	**9.58**	**30.6%**	**90.1%**	**88.2%**	**89.8%**	**-**	**72.5%**	**1.22**	**76.9%**	**2.85**	**16.8pt**	**12.5pt**	
17 本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	86.8%	4.83	4.84	30.6%	85.4%	83.6%	91.8%	-	65.0%	11.81	70.4%	14.37	21.8pt	16.5pt	10 本音を気兼ねなく発言できる
18 将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	86.2%	4.17	9.56	27.6%	87.5%	85.5%	85.7%	-	67.5%	-4.84	66.7%	-5.33	18.7pt	19.5pt	11 地域に、将来のことや実現したいことを話し合える人がいる
24 周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる	93.4%	6.37	7.58	30.6%	95.8%	92.7%	91.8%	-	82.5%	-2.61	88.9%	8.89	10.9pt	4.5pt	17 生徒に対してじっくりと話を聞き、考える手助けができている
31 お互いに問いかけあう機会がある	90.8%	5.18	16.35	33.7%	91.7%	90.9%	89.8%	-	75.0%	0.53	81.5%	-6.52	15.8pt	9.3pt	18 お互いに問いかけあう機会がある
社会性に関わる学習環境	**91.9%**	**5.43**	**22.33**	**31.1%**	**94.3%**	**91.8%**	**89.8%**	**-**	**84.4%**	**-6.58**	**84.3%**	**-12.74**	**7.6pt**	**7.7pt**	
19 地域から大切にされている雰囲気を感じる	95.4%	4.75	12.53	31.6%	97.9%	98.2%	89.8%	-	90.0%	-3.62	88.9%	-7.11	5.4pt	6.5pt	21 地域で生徒を育てるという意識を持っている
25 興味を持ったことに対してすぐに協力してくれる大人がいる	94.1%	5.59	18.07	28.6%	100.0%	92.7%	89.8%	-	80.0%	-13.62	85.2%	-14.81	14.1pt	8.9pt	19 生徒の関心に合わせて、機会を提供できている
29 地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	93.4%	7.09	30.16	32.7%	95.8%	92.7%	91.8%	-	77.5%	-9.73	74.1%	-21.93	15.9pt	19.3pt	20 地域の人や課題などにじかに触れる機会を持てている
32 自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある	84.9%	4.29	28.56	31.6%	83.3%	83.6%	87.8%	-	90.0%	0.64	88.9%	-7.11	-5.1pt	-4.0pt	12 自分の暮らす地域を外からの視点で考える機会を持てている

③ 生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）

● 10pt以上の増加　● 0～10ptの増加　● 減少

	全校			1年生（2022入学生）			2年生（2021入学生）			3年生（2020入学生）		
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年次との差
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合（%）	差(pt)	差(pt)
主体性に関わる自己認識	**69.0%**	0.23	1.14	**63.1%**	-12.09	4.68	75.6%	0.40	23.2%	67.3%	3.06	8.93
【自己肯定感・自己有用感】	63.5%	-5.22	1.52	54.2%	-20.39	-0.30	74.5%	-0.02	25.5%	60.2%	-2.76	5.74
51 自分にはよいところがあると思う	77.0%	-5.76	4.02	79.2%	-6.80	7.74	80.0%	-5.96	27.5%	71.4%	-10.05	0.00
52 私は、自分自身に満足している	50.0%	-4.68	-0.99	29.2%	-33.99	-8.33	69.1%	5.93	23.5%	49.0%	4.54	11.48
【課題設定力】	78.9%	6.29	6.81	70.8%	-4.61	6.55	87.3%	11.83	31.4%	77.6%	7.18	13.27
39 現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	78.9%	6.29	6.81	70.8%	-4.61	6.55	87.3%	11.83	31.4%	77.6%	7.18	13.27
【行動力】	64.1%	2.99	0.68	59.4%	-13.43	13.84	69.1%	-3.72	18.6%	63.3%	7.71	17.73
40 目標を設定し、確実に行動することができる	63.8%	2.66	1.38	56.3%	-13.93	8.04	70.9%	0.73	15.7%	63.3%	5.86	15.05
53 自分で計画を立てて活動することができる	64.5%	3.32	-0.03	62.5%	-12.94	19.64	67.3%	-8.17	21.6%	63.3%	9.56	20.41
【粘り強さ】	74.3%	-0.12	-1.60	71.9%	-6.20	-0.45	77.3%	-0.80	21.6%	73.5%	2.17	1.15
37 うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む	78.9%	-4.51	-1.57	75.0%	-10.96	-5.36	83.6%	-2.33	19.6%	77.6%	-3.93	-2.81
47 忍耐強く物事に取り組むことができる	69.7%	4.27	-1.63	68.8%	-1.43	4.46	70.9%	0.73	23.5%	69.4%	8.28	5.10
協働性に関わる自己認識	**76.4%**	-0.10	1.65	**74.6%**	-6.47	1.01	81.1%	0.04	23.5%	73.1%	1.58	-0.51
【受容力】	91.4%	0.80	-1.55	91.7%	-1.32	0.60	90.9%	-2.07	17.6%	91.8%	1.10	0.77
43 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	91.4%	0.80	-1.55	91.7%	-1.32	0.60	90.9%	-2.07	17.6%	91.8%	1.10	0.77
【対話力】	88.2%	-4.65	-0.99	87.5%	-3.73	-7.14	90.9%	-0.32	17.6%	85.7%	-6.88	-8.93
42 相手の意見を丁寧に聞くことができる	88.2%	-4.65	-0.99	87.5%	-3.73	-7.14	90.9%	-0.32	17.6%	85.7%	-6.88	-8.93
【表現力】	69.4%	5.02	8.80	64.6%	-8.22	8.33	77.3%	4.47	25.5%	65.3%	7.90	9.06
49 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	77.0%	3.59	10.22	75.0%	-3.95	8.93	81.8%	2.87	23.5%	73.5%	4.95	7.40
50 友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	61.8%	6.45	7.38	54.2%	-12.50	7.74	72.7%	6.06	27.5%	57.1%	10.85	10.71
【共創力】	63.8%	-6.69	-6.84	64.6%	-10.86	-5.06	69.1%	-6.35	31.4%	57.1%	-2.12	-12.50
44 共同作業だと、自分の力が発揮できる	63.8%	-6.69	-6.84	64.6%	-10.86	-5.06	69.1%	-6.35	31.4%	57.1%	-2.12	-12.50
探究性に関わる自己認識	**73.0%**	3.19	4.42	**71.9%**	-3.10	13.18	73.6%	-1.73	26.3%	73.5%	8.41	13.19
【学びの意欲】	74.1%	0.26	3.32	75.7%	-6.76	14.98	72.7%	-9.73	20.3%	74.1%	9.33	13.44
38 家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	71.7%	3.37	-2.24	62.5%	-16.45	12.50	78.2%	-0.77	19.6%	73.5%	16.06	23.47
61 地域を対象とした課題探究学習に熱心に取り組んでいる	72.4%	-3.89	13.63	83.3%	0.88	17.26	65.5%	-17.00	15.7%	69.4%	-0.98	3.32
67 学習を通じて、自分がしたいことが増えている	78.3%	1.31	-1.44	81.3%	-4.71	15.18	74.5%	-11.42	25.5%	79.6%	12.93	13.52
【情報活用能力】	75.0%	7.73	4.18	74.0%	0.27	15.92	77.3%	3.59	30.4%	73.5%	9.58	15.43
45 情報を、勉強したことと関連づけて理解できる	81.6%	7.48	3.99	87.5%	12.06	23.21	83.6%	8.20	37.3%	73.5%	-2.46	9.18
46 勉強したものを実際に応用してみる	68.4%	7.99	4.37	60.4%	-11.51	8.63	70.9%	-1.02	23.5%	73.5%	21.62	21.68
【批判的思考力】	68.1%	5.99	7.23	61.5%	-1.86	8.04	71.8%	14.39	37.3%	70.4%	6.39	13.27
41 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	51.3%	5.99	5.88	43.8%	-1.86	8.04	60.0%	14.39	37.3%	49.0%	6.39	13.27
54 一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	84.9%	-	8.59	79.2%	-	-	83.6%	-	-	91.8%	-	-
【省察力】	75.7%	0.12	2.59	77.1%	-0.11	7.44	72.7%	-4.47	25.5%	77.6%	5.33	7.91
48 自分を客観的に理解することができる	75.7%	0.12	2.59	77.1%	-0.11	7.44	72.7%	-4.47	25.5%	77.6%	5.33	7.91
社会性に関わる自己認識	**69.1%**	-4.70	5.33	**69.3%**	-10.91	1.30	69.6%	-10.64	21.7%	68.5%	0.28	0.44
【地域貢献意識】	67.3%	-4.14	7.24	70.8%	-8.70	8.93	67.9%	-11.65	19.6%	63.3%	-2.17	1.36
65 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	60.5%	-1.34	16.49	62.5%	-5.92	17.86	56.4%	-12.06	23.5%	63.3%	7.71	18.62
56 地域をよりよくするため、地域の問題に関わりたい	70.4%	-5.86	6.26	77.1%	-7.13	5.65	74.5%	-9.67	15.7%	59.2%	-14.89	-12.24
58 将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	71.1%	-5.21	-1.03	72.9%	-13.05	3.27	72.7%	-13.24	19.6%	67.3%	0.68	-2.30
【社会参画意識】	74.1%	-4.53	7.74	71.5%	-11.51	-2.28	75.8%	-7.28	22.9%	74.8%	-1.71	1.02
57 私が関わることで、社会状況が変えられるかもしれない	58.6%	-8.35	10.79	50.0%	-20.18	-5.36	61.8%	-8.36	23.5%	63.3%	0.30	7.91
62 地域や社会での問題やできごとに関心がある	78.9%	-5.23	7.75	79.2%	-13.82	0.60	80.0%	-12.98	19.6%	77.6%	-5.78	-1.02
55 18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う	84.9%	-0.02	4.67	85.4%	-0.55	-2.08	85.5%	-0.51	25.5%	83.7%	0.34	-3.83
【グローカル意識】	67.1%	-5.08	3.23	65.3%	-13.08	-2.58	67.9%	-10.48	22.9%	68.0%	3.83	0.17
59 地域の課題と世界での課題は関連していると思う	77.6%	-6.54	8.88	81.3%	-9.98	0.89	72.7%	-18.50	13.7%	79.6%	-0.04	-0.77
64 将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	77.6%	-7.98	8.55	77.1%	-14.14	2.08	78.2%	-13.05	17.6%	77.6%	3.48	2.55
63 将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	46.1%	-0.71	-7.75	37.5%	-15.13	-10.71	52.7%	0.10	37.3%	46.9%	8.05	-1.28
【持続可能意識】	67.4%	-5.23	2.01	69.8%	-10.03	1.04	65.5%	-14.37	21.6%	67.3%	1.61	-1.40
60 地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	66.4%	-1.90	8.67	70.8%	-9.87	4.76	63.6%	-17.07	17.6%	65.3%	4.20	-0.77
68 自分の将来について明るい希望を持っている	68.4%	-8.56	-4.65	68.8%	-10.20	-2.68	67.3%	-11.67	25.5%	69.4%	-0.98	-2.04

④ 生徒の行動実績（資質・能力の発揮）



● 10pt以上の増加　● 0~10ptの増加　● 減少

	全校			1年生（2022入学生）			2年生（2021入学生）			3年生（2020入学生）		
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年次との差
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合（%）	差(pt)	差(pt)
主体性に関わる行動	**79.3%**	0.50	11.59	**76.0%**	-2.03	6.40	**78.2%**	0.11	27.5%	**83.7%**	4.97	14.03
71 授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	82.9%	2.32	4.36	85.4%	4.71	10.42	81.8%	1.12	29.4%	81.6%	2.00	6.63
74 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	75.7%	-1.32	18.82	66.7%	-8.77	2.38	74.5%	-0.89	25.5%	85.7%	7.94	21.43
協働性に関わる行動	**78.0%**	-1.90	8.45	**75.0%**	-11.84	6.25	**79.1%**	-7.75	23.5%	**79.6%**	3.67	10.84
72 自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	77.0%	-4.32	8.48	70.8%	-15.13	1.19	74.5%	-11.42	21.6%	85.7%	6.08	16.07
73 友人などから、意見やアドバイスを求められた	78.9%	0.53	8.43	79.2%	-8.55	11.31	83.6%	-4.08	25.5%	73.5%	1.25	5.61
探究性に関わる行動	**74.0%**	4.23	9.24	**72.9%**	-4.28	12.20	**73.6%**	-3.56	21.6%	**75.5%**	9.77	14.80
75 授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えたり調べたりした	74.3%	0.24	7.84	68.8%	-6.69	-2.68	76.4%	0.93	25.5%	77.6%	7.18	6.12
76 公式やきまりを習う時、その根拠を自分で考えたり調べたりした	73.7%	8.22	10.65	77.1%	-1.86	27.08	70.9%	-8.04	17.6%	73.5%	12.36	23.47
社会性に関わる行動	**76.3%**	5.57	34.59	**79.9%**	9.10	13.79	**77.0%**	6.21	32.7%	**72.1%**	0.50	6.04
69 いま住んでいる地域の行事に参加した	74.3%	12.47	40.74	77.1%	20.94	12.80	76.4%	20.22	41.2%	69.4%	2.72	5.10
70 地域社会などでボランティア活動に参加した	67.1%	2.36	37.10	68.8%	2.08	16.96	74.5%	7.88	33.3%	57.1%	-7.67	5.36
77 先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした	87.5%	1.89	25.93	93.8%	4.28	11.61	80.0%	-9.47	23.5%	89.8%	6.46	7.65

⑤ 学習・その他

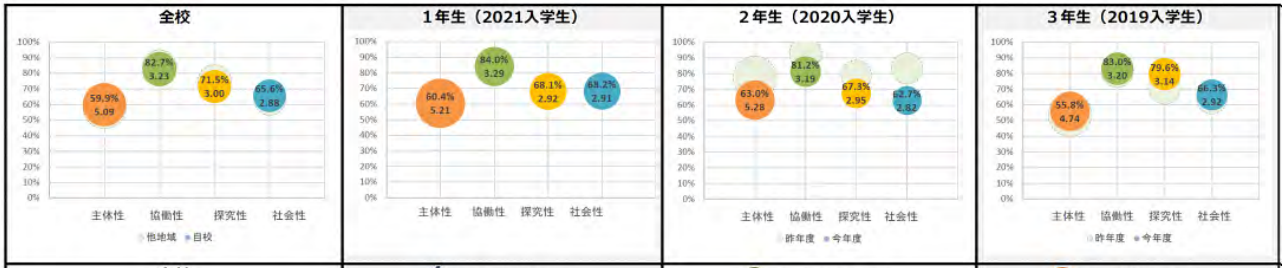
	全校			1年生（2022入学生）			2年生（2021入学生）			3年生（2020入学生）		
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年次との差
	時間(分)	差(分)	差(分)	時間(分)	差(分)	差(分)	時間(分)	差(分)	割合(%)	時間(分)	差(分)	差(分)
91 平均的な学習時間【平日】	81.12	-	-10.82	86.46	-	-	77.45	-	-	80.00	-	-
92 平均的な学習時間【休日】	116.58	-	-42.70	128.33	-	-	100.73	-	-	122.86	-	-

	全校			1年生（2022入学生）			2年生（2021入学生）			3年生（2020入学生）		
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年次との差
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合（%）	差(pt)	差(pt)
90 この学校を中学生におすすめできる	86.8%	-	5.76	89.6%	-	-	83.6%	-	-	87.8%	-	-
78 国際社会の課題解決に貢献したい	67.1%	0.92	12.04	79.2%	0.22	16.67	58.2%	-20.77	5.9%	65.3%	7.90	-
79 まだ世の中にない新しい技術やサービスを生み出してみたい	53.3%	0.77	2.27	56.3%	-10.42	4.46	52.7%	-13.94	21.6%	51.0%	6.58	-
80 客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることができる	51.3%	-0.48	7.15	52.1%	-5.81	14.58	52.7%	-5.17	25.5%	49.0%	-1.02	-

⑥ 大人向け調査

	大人向け調査（全回答平均）			大人向け調査(教職員のみ)		
	全体	昨年度との差	他地域との差	全体	昨年度との差	他地域との差
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)
25 この学校を中学生におすすめできる	82.5%	-	-3.36	77.8%	-	-5.80
26 この学校に関わってよかったと思う	97.5%	-	7.27	100.0%	-	11.01
27 この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	70.0%	-	-9.21	55.6%	-	-21.64
28 【教職員のみ】地域・社会との協働を通して、授業の質の向上につながっている	77.8%	-	17.87	77.8%	-	17.87
29 【教職員のみ】地域・社会との協働を通して、自身の資質・能力の向上につながっている	77.8%	-	8.60	77.8%	-	8.60
30 【教職員のみ】地域・社会との協働を通して、学習意欲が高まった生徒がいる	70.4%	-	2.83	70.4%	-	2.83
31 【教職員のみ】地域・社会との協働を通して、業務負担感の軽減につながっている	22.2%	-	3.00	22.2%	-	3.00

⑦ 生徒のウェルビーイング



● 10pt以上の増加　● 0~10ptの増加　● 減少

	全校				1年生（2021入学生）			2年生（2020入学生）			3年生（2019入学生）		
	全体	昨年度との差	他地域との差		学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年次との差
	割合(%)	差(pt)	差(pt)		割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合（%）	差(pt)	差(pt)
主体性に関わるウェルビーイング	**59.9%**	-0.46	1.65		**60.4%**	-8.44	11.61	**63.0%**	-6.28	39.2%	**55.8%**	5.48	2.04
81 今の生活全般に対する満足度（0~10で評価：6以上の割合）	66.4%	-0.46	5.56		68.8%	-8.44	11.61	70.9%	-6.28	39.2%	59.2%	5.48	2.04
82 普段のあなたの幸福度（0~10で評価：6以上の割合）	67.8%	-	5.42		64.6%	-	-	72.7%	-	-	65.3%	-	-
83 現在の日常生活に不安や心配事がない	45.4%	-	-6.03		47.9%	-	-	45.5%	-	-	42.9%	-	-
協働性に関わるウェルビーイング	**82.7%**	1.11	-1.28		**84.0%**	-3.40	0.30	**81.2%**	-7.53	25.5%	**83.0%**	8.31	0.51
66 この学校に入ってよかったと思う	88.2%	1.11	1.90		89.6%	-3.40	0.30	85.5%	-7.53	25.5%	89.8%	8.31	0.51
84 学校の一員だと感じている	83.6%	-	-2.93		83.3%	-	-	85.5%	-	-	81.6%	-	-
85 大切な人を幸せにしたり、楽しませたりしていると思う	76.3%	-	-2.81		79.2%	-	-	72.7%	-	-	77.6%	-	-
探究性に関わるウェルビーイング	**71.5%**	-8.56	-3.38		**68.1%**	-10.20	-2.68	**67.3%**	-11.67	25.5%	**79.6%**	-0.98	-2.04
68 【再掲】自分の将来について明るい希望を持っている	68.4%	-8.56	-4.65		68.8%	-10.20	-2.68	67.3%	-11.67	25.5%	69.4%	-0.98	-2.04
86 自分の将来についての見通し（将来こういう風でありたい）を持っている	71.7%	-	-5.39		64.6%	-	-	65.5%	-	-	85.7%	-	-
87 自分の将来に向けて大切だと思うことを実行している	74.3%	-	-0.12		70.8%	-	-	69.1%	-	-	83.7%	-	-
社会性に関わるウェルビーイング	**65.6%**	-3.55	2.27		**68.2%**	-11.46	4.02	**62.7%**	-15.15	18.6%	**66.3%**	2.44	-1.53
58 【再掲】将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	71.1%	-5.21	-1.03		72.9%	-13.05	3.27	72.7%	-13.24	19.6%	67.3%	0.68	-2.30
60 【再掲】地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	66.4%	-1.90	8.67		70.8%	-9.87	4.76	63.6%	-17.07	17.6%	65.3%	4.20	-0.77
88 この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	75.0%	-	4.04		75.0%	-	-	70.9%	-	-	79.6%	-	-
89 日本の将来は明るいと思う	50.0%	-	-2.63		54.2%	-	-	43.6%	-	-	53.1%	-	-

令和４年度　高校魅力化評価システム　「③生徒の自己認識」「④生徒の行動実績」結果比較

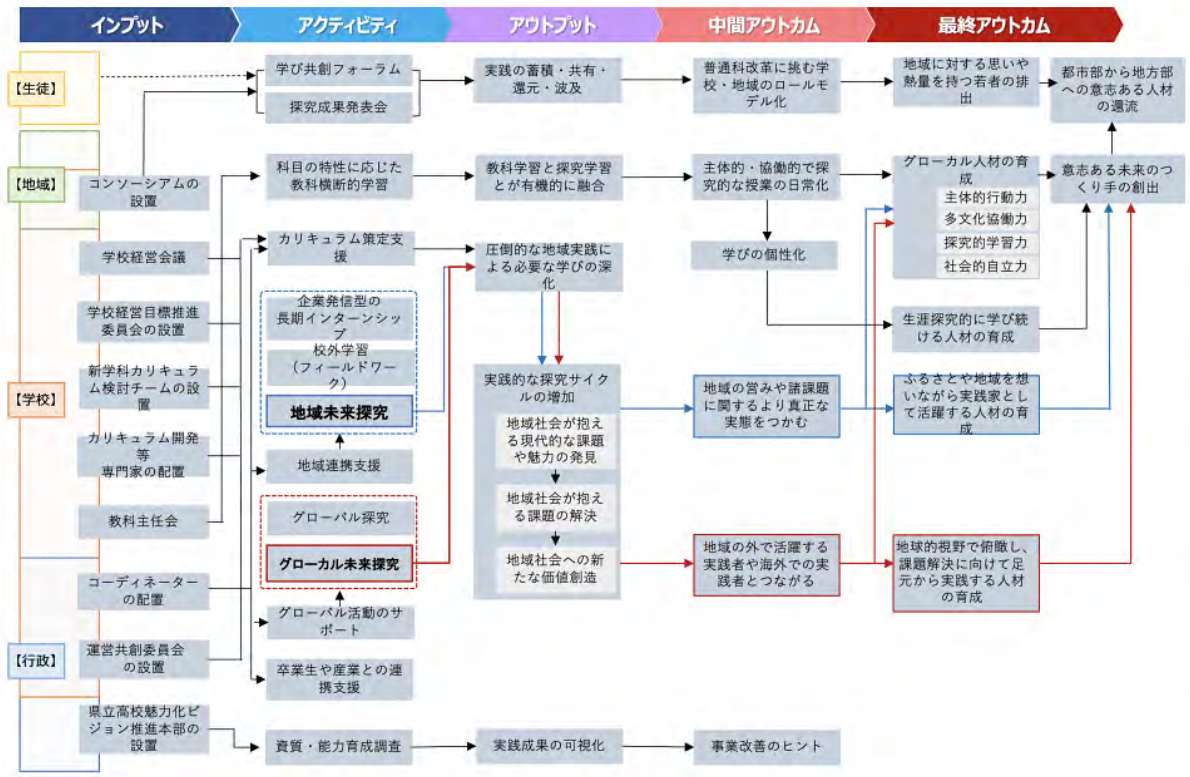
③ 生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）		1年生	2年生	3年生
【自己肯定感・自己有用感】				
51 自分にはよいところがあると思う	1回目	79.2%	80.0%	71.4%
	2回目	58.8%	78.9%	75.6%
52 私は、自分自身に満足している	1回目	29.2%	69.1%	49.0%
	2回目	27.5%	56.1%	55.6%
【課題設定力】				
39 現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	1回目	70.8%	87.3%	77.6%
	2回目	60.8%	71.9%	75.6%
【行動力】				
40 目標を設定し、確実に行動することができる	1回目	56.3%	70.9%	63.3%
	2回目	43.1%	71.9%	66.7%
53 自分で計画を立てて活動することができる	1回目	62.5%	67.3%	63.3%
	2回目	45.1%	64.9%	48.9%
【粘り強さ】				
37 うまくいか分からないことにも意欲的に取り組む	1回目	75.0%	83.6%	77.6%
	2回目	64.7%	82.5%	84.4%
47 忍耐強く物事に取り組むことができる	1回目	68.8%	70.9%	69.4%
	2回目	56.9%	70.2%	82.2%
【受容力】				
43 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	1回目	91.7%	90.9%	91.8%
	2回目	92.2%	87.7%	95.6%
【対話力】				
42 相手の意見を丁寧に聞くことができる	1回目	87.5%	90.9%	85.7%
	2回目	90.2%	89.5%	93.3%
【表現力】				
49 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	1回目	75.0%	81.8%	73.5%
	2回目	60.8%	71.9%	73.3%
50 友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	1回目	54.2%	72.7%	57.1%
	2回目	51.0%	63.2%	53.3%
【共創力】				
44 共同作業だと、自分の力が発揮できる	1回目	64.6%	69.1%	57.1%
	2回目	58.8%	63.2%	66.7%
【学びの意欲】				
38 家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	1回目	62.5%	78.2%	73.5%
	2回目	56.9%	64.9%	64.4%
61 地域を対象とした課題探究学習に熱心に取り組んでいる	1回目	83.3%	65.5%	69.4%
	2回目	66.7%	64.9%	84.4%
67 学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている	1回目	81.3%	74.5%	79.6%
	2回目	76.5%	84.2%	84.4%
【情報活用能力】				
45 情報を、勉強したことと関連づけて理解できる	1回目	87.5%	83.6%	73.5%
	2回目	66.7%	80.7%	84.4%
46 勉強したものを実際に応用してみる	1回目	60.4%	70.9%	73.5%
	2回目	47.1%	71.9%	73.3%
【批判的思考力】				
41 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	1回目	43.8%	60.0%	49.0%
	2回目	35.3%	50.9%	48.9%
54 一つ二つの立場だけでなく できるだけ多くの立場から考えようとする	1回目	79.2%	83.6%	91.8%
	2回目	68.6%	75.4%	84.4%
【省察力】				
48 自分を客観的に理解することができる	1回目	77.1%	72.7%	77.6%
	2回目	60.8%	73.7%	77.8%
【地域貢献意識】				
65 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	1回目	62.5%	56.4%	63.3%
	2回目	56.9%	56.1%	64.4%
56 地域をよりよくするため、地域の問題に関わりたい	1回目	77.1%	74.5%	59.2%
	2回目	74.5%	73.7%	71.1%
58 将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	1回目	72.9%	72.7%	67.3%
	2回目	70.6%	77.2%	77.8%
【社会参画意識】				
57 私が関わることで、社会状況が変えられるかもしれない	1回目	50.0%	61.8%	63.3%
	2回目	62.7%	68.4%	82.2%
62 地域や社会での問題やできごとに関心がある	1回目	79.2%	80.0%	77.6%
	2回目	80.4%	87.7%	93.3%
55 18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う	1回目	85.4%	85.5%	83.7%
	2回目	82.4%	91.2%	93.3%
【グローカル意識】				
59 地域の課題と世界での課題は関連していると思う	1回目	81.3%	72.7%	79.6%
	2回目	72.5%	80.7%	88.9%
64 将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	1回目	77.1%	78.2%	77.6%
	2回目	84.3%	77.2%	82.2%
63 将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	1回目	37.5%	52.7%	46.9%
	2回目	21.6%	54.4%	48.9%
【持続可能意識】				
60 地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	1回目	70.8%	63.6%	65.3%
	2回目	74.5%	73.7%	71.1%
68 自分の将来について明るい希望を持っている	1回目	68.8%	67.3%	69.4%
	2回目	62.7%	68.4%	73.3%

④ 生徒の行動実績（資質・能力の発揮）		1年生	2年生	3年生
[illegible]				
71 授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	1回目	85.4%	81.8%	81.6%
	2回目	76.5%	93.0%	71.1%
74 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	1回目	66.7%	74.5%	85.7%
	2回目	56.9%	78.9%	82.2%
[illegible]				
72 自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	1回目	70.8%	74.5%	85.7%
	2回目	60.8%	84.2%	77.8%
73 友人などから、意見やアドバイスを求められた	1回目	79.2%	83.6%	73.5%
	2回目	70.6%	80.7%	84.4%
[illegible]				
75 授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えたり調べたりした	1回目	68.8%	76.4%	77.6%
	2回目	60.8%	78.9%	82.2%
76 公式やきまりを習う時、その根拠を自分で考えたり調べたりした	1回目	77.1%	70.9%	73.5%
	2回目	60.8%	75.4%	66.7%
[illegible]				
69 いま住んでいる地域の行事に参加した	1回目	77.1%	76.4%	69.4%
	2回目	78.4%	84.2%	80.0%
70 地域社会などでボランティア活動に参加した	1回目	68.8%	74.5%	57.1%
	2回目	70.6%	77.2%	80.0%
77 先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした	1回目	93.8%	80.0%	89.8%
	2回目	74.5%	91.2%	82.2%

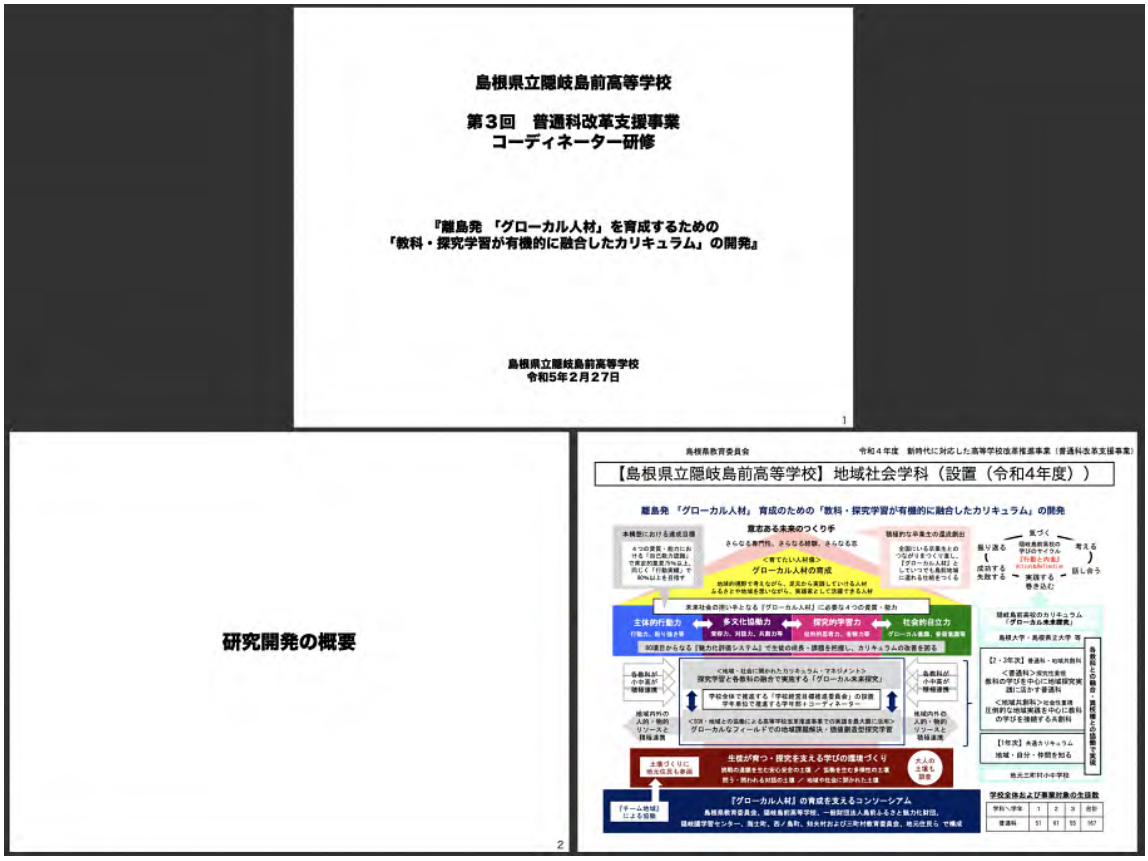
⑤ 生徒のウェル・ビーイング		1年生	2年生	3年生
[illegible]				
81 今の生活全般に対する満足度	1回目	68.8%	70.9%	59.2%
	2回目	45.1%	59.6%	57.8%
82 普段のあなたの幸福度	1回目	64.6%	72.7%	65.3%
	2回目	39.2%	70.2%	62.2%
83 現在の日常生活に不安や心配事がない	1回目	47.9%	45.5%	42.9%
	2回目	33.3%	70.2%	51.1%
[illegible]				
66 この学校に入って良かったと思う	1回目	89.6%	85.5%	89.8%
	2回目	86.3%	96.5%	91.1%
84 学校の一員だと感じている	1回目	83.3%	85.5%	81.6%
	2回目	88.2%	93.0%	86.7%
85 大切な人を幸せにしたり、楽しませたりしていると思う	1回目	79.2%	72.7%	77.6%
	2回目	72.5%	80.7%	80.0%
[illegible]				
86 自分の将来についての見通しを持っている	1回目	64.6%	65.5%	85.7%
	2回目	60.8%	84.2%	84.4%
87 自分の将来に向けて大切だと思う事を実行している	1回目	70.8%	69.1%	83.7%
	2回目	62.7%	84.2%	86.7%
[illegible]				
88 この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	1回目	75.0%	70.9%	79.6%
	2回目	64.7%	84.2%	84.4%

補足・追加設問		1年生	2年生	3年生
78 国際社会の課題解決に貢献したい	1回目	79.2%	58.2%	65.3%
	2回目	62.7%	66.7%	68.9%
79 まだ世の中にない新しい技術やサービスを生み出してみたい	1回目	56.3%	52.7%	51.0%
	2回目	62.7%	63.2%	71.1%
80 客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることができる	1回目	52.1%	52.7%	49.0%
	2回目	52.9%	63.2%	60.0%

（３）普通科改革支援事業ロジックモデル



（４）普通科改革支援事業第３回コーディネーター研修（令和５年２月２７日）資料



今年度のゴール設定

①令和５年度からの本格開始に向けた体制整備

②令和５年度からの本格開始に向けたカリキュラム開発

③新学科設立に向けた生徒・保護者への説明と島内外の広報

④今後の計画

4

今年度のゴール設定

①令和５年度からの本格開始に向けた体制整備

②令和５年度からの本格開始に向けたカリキュラム開発

③新学科設立に向けた生徒・保護者への説明と島内外の広報

④今後の計画

5

体制整備①
本事業を推進するコーディネーターの活動における成果と課題

【コーディネーター】

本校では、本事業で採用しているコーディネーター１名とグローバルコーディネーター１名に加え、４名のコーディネーターが発令し、本事業の推進も含めた学校魅力化に取り組んでいる。

コーディネーターの活動の様子

学校と地域をつなぐ
授業のコーディネート

地域や学校と卒業生をつなぐ
卒業生会のコーディネート

学校経営目標の推進のための
学校行事のコーディネート

グローバル探究含む
グローバルとの接続

教職員の学びを深める
教職員研修・勉強会の開催

コーディネーターは、生徒×生徒、生徒×教員、生徒×地域、教員×教員、教員×地域、島前地域×他地域、島前地域×海外など、さまざまな既存のコンテンツを組み合わせ、学校経営目標を踏まえながら、本事業を自らも推進し、さらには、推進できる体制や環境づくりにも取り組んでいる。特に、島勤や入れ替わりの多い本校においては、地域の人材や地域の動きを熟知するコーディネーターの存在は、今後も大きいといえる。また、本校ではALTが常駐していないので、本校が掲げるグローカル人材の育成をするために、グローバルの要素を取り入れるため、グローバルコーディネーターを配置し、英語の授業や総合的な探究の時間、スピーチコンテストや海外研修の英語プレゼンテーション、EnglishDayのサポートや企画などを行い、ローカルだけでなくグローバルの推進に取り組んでいる。

課題

本校では、10年以上コーディネーターという存在と共に、地域との協働を進めてきた。現在では、学校経営補佐官として、学校経営にも携わるようにもなり、「人が変わっても進化し続ける学校経営」を掲げ、学校経営会議を実施している。今後は、新しいコーディネーター的人材の関わりの多様化（島外からメンター的に関わるコーディネーター的人材や一年単位で卒業生がインターンとしてコーディネーターになるなど）を進めていきたい。

体制整備②
学校内外の体制構築における成果と課題

【体制】

校内の推進体制としては、学校経営会議や運営委員会、職員会議等を中心に本事業を推進している。また、コーディネーターも加わりながらコンソーシアムおよび運営指導委員会を設けることで、校外とも連携しながら推進している。

会議の様子

学校経営会議

運営指導委員会

推進協議会（コンソーシアム会議）

運営「共創」委員会

【学校経営会議】

月に1度の学校経営会議では、本校管理職に加え、学校経営補佐官2名（地域内在住・地域外在住）とコーディネーター1名で、本事業における研究開発も含めて、学校経営目標のPDCAを協議している。

【推進協議会（コンソーシアム会議）】

本校教職員・コーディネーターに加え、地域の方々が参加している推進協議会は、毎年4～5回程度実施し、新学科の説明に加え、地域目線での助言・アドバイスだけではなく、活動サポートなどを行なっていただいている。

【運営指導（共創）委員会】

本事業における運営指導委員会は、単に助言・アドバイスをする・もらう関係ではなく、「共に創る」関係性を目指し、運営共創委員会と位置付けている。2022年7月に開催した運営共創委員会では、出前授業やフィールドワーク、カリキュラムを共に考える場合として、現場の教職員やコーディネーターと協議をした。

課題

本事業を推進していく中で、学校経営会議で本事業の研究開発を経営目標の中に位置付け、推進協議会で地域との協働を進め、さらには運営共創委員会で、外部の専門家たちの知見を現場に活かしていく流れができている。一方で、これらの動きを研究開発推進チームだけではなく、校内教員へ即時的・効果的に情報共有する仕組みづくりが課題となっている。

7

今年度のゴール設定

①令和５年度からの本格開始に向けた体制整備

②令和５年度からの本格開始に向けたカリキュラム開発

③新学科設立に向けた生徒・保護者への説明と島内外の広報

④今後の計画

8

カリキュラム開発①
令和５年度からの新学科本格開始に向けた、
１年夢探究（総合的な探究の探究の時間）の改訂

１年夢探究の様子

来年度から普通科と新学科に分かれることを見越し、今年度から１年生の夢探究のカリキュラムを改訂し、実施している。

それまでは、一年通して探究の基礎を学んでいたが、一学期に実践し、足りないところを踏まえて、２学期は、普通科的探究と共創科的探究をして、学科選択にも活かせるようなカリキュラムに改訂した。

夢探究Ⅰ 地域共創実践活動
漁師からのミッションに挑む3日間

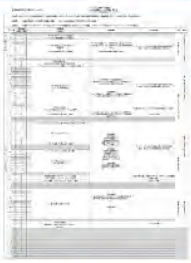
教科横断ゼミから発展し地元企業と連携した電力事業開始

課題

今年度の新カリキュラムの実践の振り返りと来年度新学科カリキュラムを踏み、一年生初期にインプットや関係性構築があるとなお良い。そのため、来年度は、探究基礎合宿を年度始めに設置することになった。

カリキュラム開発②
令和５年度からの新学科本格開始に向けた、新学科カリキュラム開発

新学科カリキュラム開発チーム



学校経営目標推進に新学科準備を位置付け、毎週の定例MTGを実施している。そこでは、教員とコーディネーターだけでなく、外部のアドバイザーも不定期で入りながら、カリキュラムや伴走体制を作っていった。

左記は、新学科２～３年生の２年間のカリキュラムで、２年間でローカルやグローバルをフィールドに学べるように組み立てた。

課題

生徒のマイテーマが中心になってくるため、こちらが用意したカリキュラムの流れが適切かどうかの検証が今後必要。また、生徒の活動についての予算の充当も必要。

今年度のゴール設定

①令和５年度からの本格開始に向けた体制整備

②令和５年度からの本格開始に向けたカリキュラム開発

③新学科設立に向けた生徒・保護者への説明と島内外の広報

④今後の計画

11

生徒・保護者への説明と島内外への発信①
生徒・保護者への説明

生徒・保護者向け説明会と生徒座談会

左記のように、学科選択に向けて、学科の特徴や選択の際の注意点などを踏まえた説明会を保護者向けに年３回、生徒向けに年４回実施し、調査も年３回行い、担任が面談するなどしてサポートした。

また、上記のような生徒との座談会を学科選択前と選択後に３回設け、特徴の紹介やカリキュラムの共創に努めた。

課題

細かい動きが、生徒のマイテーマが中心になってくることや、来年度が初年度に当たるため、明示できる事例がなく、生徒もイメージを掴むまでに苦労した場面があった。来年度以降は、実態に基づいた事例を紹介し、イメージを早く持てるようにし、学科選択に活かしてもらえるようにする。

生徒・保護者への説明と島内外への発信②
島内外への発信

新学科カリキュラム開発チーム

＜島内への発信＞

推進協議会（コンソーシアム）→５・７・１・３月

三町村中学校説明会→６月

島内中学生向けオープンスクール→７月

魅力化の会（コンソーシアム運事会）→９・１・３月

に実施し、進捗状況や学科の特徴などを説明した。

＜島外への発信＞

学校HPに、新学科についてのページを新設し、適宜情報発信をした。また、メディアの取材を受けたり、本事業で計画に盛り込んでいる「伴走者フォーラム」のテーマも、新学科に合わせた「共創」をテーマにし、島内外の参加者と共に学び合う機会をつくった。

３月１１日（土）普通科改革イベント主催with文科省　@東京

３月１０日（土）には、東京にて文部科学省の担当者をお招きし、本校の普通科改革も題材にしながら、参加者と共に学び合うイベントを企画中。ぜひ皆さまにもご来場いただきたい。

今年度のゴール設定

①令和５年度からの本格開始に向けた体制整備

②令和５年度からの本格開始に向けたカリキュラム開発

③新学科設立に向けた生徒・保護者への説明と島内外の広報

④今後の計画

今後の計画

普通科改革で目指すこと

普通科改革で目指すことは、学校設定科目の増設による本校の特色化・魅力化をさらに推進していくことはもちろんのこと、これまで公教育（公立の高校）で提唱・当たり前だったことを問い直し、新しい学びのあり方や体制を生徒や地域が一体となり、地域外のリソースも活用しながら、新しいスタンダードを共に創っていくことではないだろうか。

来年度の計画

今年度の実践を踏まえ、一年生カリキュラムの改善や学科選択の説明、島内外の発信の改善を行なっていく。
また、来年度から本格的に始まる２年生カリキュラムや伴走体制は、適宜修正しながら推進する。さらに、２年生カリキュラムを進めながら、３年生カリキュラムの修正、再来年度の２年生カリキュラムの改善も図っていく。

参考（新学科リーフレット）

【参考】

新学科（地域共創科）特設ページ　https://www.dozen.ed.jp/local/5383/